

週刊

GAINAX総監修ビジュアル・ガイドブック

新訂版

# EVANGELION

## C H R O N

エヴァンゲリオン・クロニクル

# 26

定価 **690**円(税込)

2010/8/3

Mechanic Sheet

第11使徒イロウル

Character Sheet

綾波レイ

Tactics Sheet

NERV強制接收

Timeline Sheet

涙

Installation Sheet

戦略自衛隊

Technology Sheet

セカンドインパクト

Extra Sheet

用語辞典 / 主題歌集 / トピックス



**特製バインダー  
発売中!**

DEAGOSTINI

インターネットで  
ハードウェアをより楽しむ [deagostini.jp](http://deagostini.jp)

# EVANGELION

## CHRONICLE

# 26

### 目次 CONTENTS

**Mechanic Sheet** メカニックシート  
**第11使徒イロウル** 01-04

**Character Sheet** キャラクターシート  
**綾波レイ C** 05-08

**Tactics Sheet** タクティクスシート  
**NERV強制接收** 09-12

**Timeline Sheet** タイムラインシート  
**涙** 13-16

**Installation Sheet** インスタレーションシート  
**戦略自衛隊** 17-18

**Technology Sheet** テクノロジーシート  
**セカンドインパクト B** 19-20

**Extra Sheet** エクストラシート  
**用語辞典** 21-22  
**主題歌集** 23-28  
**トピックス** 29-32

**新世紀エヴァンゲリオン オフィシャルページ**  
 エヴァンゲリオンのリアルタイム情報はこちらで！

PCサイト  
 ▶ <http://www.gainax.co.jp/anime/eva/>

携帯サイト ▶ <http://wpp.jp/eva/>

エヴァンゲリオンオフィシャルストア  
 ▶ <http://www.evastore.jp/>

ココからGO!



[発行日] 2010年8月3日  
 [発行] 株式会社デアゴスティーニ・ジャパン  
 〒104-0045  
 東京都中央区築地4-7-5 築地KYビル  
 [発行人] 小河原和世  
 [編集人] クロス中山慶子  
 [チーフエディター] 安部 翠  
 [印刷] 大日本印刷株式会社  
 ©2010 K.K.DeAgostini Japan All rights reserved.  
 [編集協力] 株式会社ウィーブ (石川裕人/田代 豪/大久保圭/本多らな)  
 [監修] 株式会社ガイナックス  
 ©GAINAX・カラー/Project Eva. ©GAINAX・カラー/EVA製作委員会

<オリジナル版>  
 [編集協力] 有限会社 メガロマニア (富田英樹/高村泰稔/渡邊洋三/加藤和弘/山田展寛/桑木貴章/鈴木秀治/公森直樹)  
 [執筆] TRAP (西川紗矢/佐々木まりな)/ぼろり春草  
 [イラスト] 市川裕文/深野洋一 (M.I.C.) /射尾卓弥  
 [デザイン] ローカル・サポート・デパートメント (島田英明/角田正明)  
 株式会社 インフォビジョン (河野幹哉/安川純史/田中治彦)  
 <新訂版>  
 [編集協力] スタジオ・ハードデラックス株式会社 (伊藤桃香/米良真一)  
 [デザイン] スタジオ・ハードデラックス株式会社 (松本優典)

- 書店向け注文受注センター  
 (書店様からのご注文を承ります)  
 ☎ 03-5212-5311  
 (月～金 9:30～17:30 土日祝日を除く)  
 FAX 03-5212-5312
- 読者サービスセンター  
 (本誌関連の一般的な質問を承ります)  
 ☎ 0570-008-109  
 (月～金 10:00～18:00 土日祝日を除く)

※本商品は2007年に刊行された『エヴァンゲリオン・クロニクル』(発売:ソニー・マガジズ)に改訂を加えて刊行するものです。

**本誌の最新情報をCheck!**

PCからもケータイからも同じアドレスでアクセスできます。  
<http://deagostini.jp/eva/>



**定期購読のご案内**

週刊『エヴァンゲリオン・クロニクル 新訂版』は、毎週火曜日発売です(一部地域を除く)。シリーズ全号が確実にお手元に届くように、書店を通じての定期購読をお勧めいたします。最寄の書店で、定期購読または予約購読をご用命ください。また、小社を通じての定期購読を希望される方は、次のいずれかの方法でお申し込みください。

1. 読者専用定期購読受注センターに電話またはFAXで  
 ☎ 0120-300-851  
 (9:00～21:00 年中無休)  
 FAX 0120-834-353  
 (定期購読申し込み用紙をお送りください。24時間受付)
2. インターネットで  
<http://deagostini.jp/eva/> (24時間受付)  
 ※ケータイからも同じアドレスでアクセスできます。
3. 定期購読申し込み用紙を郵送  
 (『定期購読のお知らせ』がお手元がない場合は受注センターまでご連絡ください。)

**特製バインダー発売中!!**

週刊『エヴァンゲリオン・クロニクル 新訂版』は特製バインダー4冊に収まります。エヴァンゲリオン大百科を完成させるのに不可欠な特製バインダー2・3巻の2冊セットを通常価格1,790円(税込)で発売しております。お近くの書店でお求めください。  
 ※4巻目のバインダーは第31号でプレゼントいたします。



下記弊社プライバシーポリシーに同意の上、お申し込みください。【個人情報のお取り扱いについて】 1. 個人情報の利用目的 商品の発送と連絡、各種情報・資料等のご案内を利用目的とします。 2. 第三者への個人情報の提供・開示等 法令の規定に基づいて司法・行政機関等からの情報開示の要請を受けた場合を除き、第三者に個人情報を提供・開示等することはありません。 3. 個人情報の委託と管理 弊社は注文の受け付けと確定、商品の配送、クレジットカード会社への確認と支払いの処理、代金収納専門企業による売り上げ代金の収納、データの分析、カスタマーサービスなどのために必要な範囲内で保有している個人情報を他社に委託していますが、契約等により委託先を厳重に管理いたします。 4. 個人情報の提供の任意性 個人情報を弊社に提供されるかどうかは、お客様の任意におまかせします。但しお申込フォームの項目に未記入部分があると手続きがとれない場合があります。(購入に関するお問い合わせは定期購読受注センター:0120-300-851へ) 5. 個人情報に関する開示請求等のお問い合わせ窓口 デアゴスティーニ・ジャパンCRM部長 電話番号:03-5308-8296 \*受付時間 10:00-18:00 (土日祝日、弊社休業日を除く) \*弊社ウェブサイトで個人情報保護の詳細をご案内しております。 <http://deagostini.jp/security/>



第11使徒

イ  
ロウル



MAGIを乗っ取った

細菌サイズの使徒

ELEVENTH ANGEL

YROUL



UNKNOWN



↑模擬体正面

すげえ……

進化しているんだわ

(赤木リツコ)

←模擬体側面

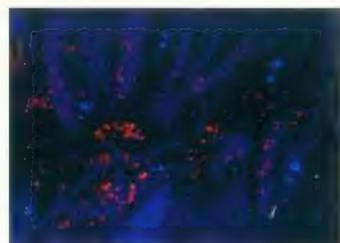


## ヒトの知恵によって殲滅された使徒

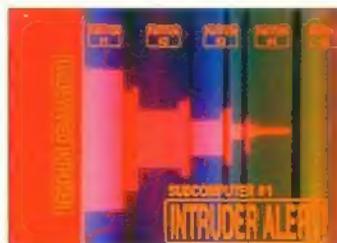
物理的な戦闘能力ではなく、その特異性をもってヒトを追い詰めた最初で最後の使徒がイロウルであろう。その在り様には使徒という種の多様性も見られる。

資材の搬入に紛れNERV本部に侵入したイロウル。MAGIをハッキングして本部の自爆を図るが、逆ハックにより自滅促進プログラムを送られ殲滅された。

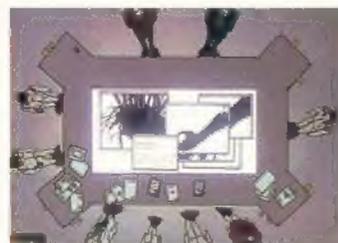
エノク書においてイロウルは恐怖を司るとされる。本部内に初めて使徒の侵入を許した上にEVA抜きで戦うことを強いられた人間。しかもMAGIすら敵にまわったという絶望的な状況は、NERVスタッフに大いなる恐怖をもたらしたであろう。



第87タンバク壁から狭く間に増殖し、模擬体の下垂システムをも侵食。その制御を乗っ取ってしまう。



増殖を続けたイロウルは知能回路を形成し、NERV本部のサブコンピュータをハッキングするまでに進化する。



EVAを使えない状況下において、人間は持ち得る知恵を武器とし、進化を続けるイロウルの自滅を促し殲滅した。

### 関連事項

- プリブノーボックス
- 模擬体
- MAGI
- 使徒



NERV本部の実験施設。模擬体が配備されており、オートパイロット実験が行なわれたが、イロウルに侵食され破壊された。

## DATA

呼称：11th ANGEL

第11使徒

天使名：YROUL

イロウル

象徴：SYMBOL

恐怖

能力：ABILITY

自己進化  
知能回路の形成

## イロウルの体構造

増殖と進化を行なうマイクロマシンサイズの個体が、イロウルというひとつの意志の下で統制され、個体それぞれが様々な役割を果たせる生命体と考えられる。



サイズは極小ながらも、使徒の証でもあるA.T.フィールドでポリソームのレーザーから身を守ったイロウル。天敵であるEVAの脅威を考慮する必要がないため、物理的な攻撃手段にはほぼ無敵といえよう。

## 爆発的な進化能力

加速度的進化と増殖はS機関の為せる技であろう。進化＝環境への適応であり弱点を即時克服するという高いサバイバリティを持つが、進化の終点は自滅というリスクから逃れられない。



モニターにある10<sup>4</sup>mは赤血球と同サイズであり、イロウルはそれよりも小さいDNAの二重螺旋構造である10<sup>4</sup>m以下、ナノ粒子並の生命体と推測され、常時目まぐるしく進化を続けている。

## 知能回路の形成

進化を繰り返したイロウルは、NERV本部の根幹を成すコンピュータ環境に適応。マイクロマシンサイズという特性を用いて人間の造りだした演算装置、コンピュータの形成に至る。その結果、侵食ではなく人間の道具に干渉できる体を得たものの、それにより人間からの干渉も受ける体になってしまい、進化を促すプログラムを送られ、自滅することになってしまう。



光学模様を変化させて電子回路を形成したイロウル。これにより使徒自身がコンピュータと化し、侵食ではなくハッキングという手段によって本部のコンピュータを掌握していく。

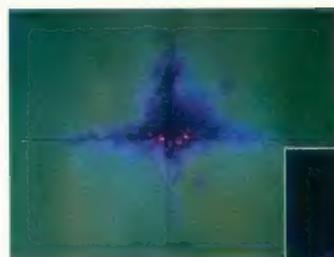
驚異的な演算能力は第7世代のスーパーコンピュータMAGIをも上回り、メルキオールをリプログラム。継続してバルタザールへのハッキングも行ない、本部の自律自爆を図る。



↑イロウルに侵食された模擬体

## イロウルの活動記録

タンパク壁の資材パーツに紛れNERV本部へと侵入したイロウル。オートパイロット実験でのA.T.フィールド展開を感知した瞬間に活動を開始する。タンパク壁が隣接するプリブノーボックスの模擬体を侵食してシグマユニットD-16～17まで増殖。その際に弱点であるオゾンの注入を受け減少したが、進化によりオゾン克服して糧と成し再度増殖、知能回路の形成によりMAGIの掌握を図る。しかし、カスパーからの逆ハックにより自滅促進プログラムを受け殲滅された。



第87タンパク壁の劣化はイロウルの侵食が原因であった。そのためか、通常の壁と異なり温度と伝導率が変化していた。

常に進化し続けているイロウル。その能力を逆手に取られ、プログラムにより進化を強制的に促進された結果、自滅してしまう。



## イロウル侵攻記録

イロウル殲滅  
 自滅促進プログラムにより自滅  
 MAGIをハッキング、本部の自律自爆を図る  
 保安部メインバンクに侵入  
 サブコンピュータをハッキング  
 模擬体を侵食  
 オートパイロット実験中に活動開始  
 第87タンパク壁のパーツに紛れNERV本部へ侵入



## 特記事項

### 侵食能力を持つ使徒

様々な能力を持つ使徒の中には、対象を侵食するタイプが存在する。第11使徒イロウルは細菌サイズの本体が増殖して対象を侵食。第13使徒バルディエルは粘菌状の本体により対象を侵食して寄生。第16使徒アルミサエルは触れた対象の生体部品を犯して同化する。これら使徒にはEVAによる物理的な排除手段が有効とはいえず、多大な犠牲をもって殲滅に成功している。使徒という種の多様性の中で、明確にEVAやNERV本部の破壊を目的として誕生したタイプとも考えられる。



粘菌が本体だと思われるバルディエルは、寄生することで活動するための体を得ていた。

アルミサエルはEVAの生体部品だけではなく、操縦者の精神をも侵食し、同化する。



### 第11使徒イロウル



#### 侵食方法

増殖により侵食

### 第13使徒バルディエル



#### 侵食方法

粘菌状の本体により侵食

### 第16使徒アルミサエル



#### 侵食方法

一次的接触により侵食



流転の  
果てに



NERV

1st Children

綾波レイ

REI AYANAMI

ヒトを  
慈しんだ存在

### 個人情報

名前	綾波レイ
年齢	14歳
国籍	不明
生年月日	不明
血液型	不明
所属	NERV/EVA零号機専属操縦者

同じ姿、同じ記憶、同じ使命を与えられた3人の綾波レイ——様々な計画と並行して造られたモノ。それがファーストチルドレン、綾波レイである。零号機パイロットとしてそれらの計画になくはない存在であったレイ。無感情に与えられた役割を淡々とこなす彼女の背景には、NERVが隠し続けてきた真実があった。地下のプラントで保存されている、無数の綾波レイの「入れ物」たち。綾波レイ誕生の場であり、魂のない体の墓場でもあるその場は、ひとつの答えを示している。つまり、NERVにとってレイとは使い捨てができるパイロット、モノだったのだ。レイが実際どこまでの真実を理解していたのかは定かではないが、渚カヲルとの出会いによって、それまで漠然としていた自分の所属がヒトよりも使徒に近い存在なのだと悟ったとも考えられる。また、碓ゲンドウが執着していたのはレイ自身ではなく、人類補完計画を完成させるためのパーツとして、使徒を倒すための人形として、さらには碓ユイの身代わりとしてのレイであり、何ひとつレイその人を見てはいなかったということに気づいたのだろう。その結果、彼女はゲンドウの人形であることをやめ、第2の使徒とも言われるリリスへと還る選択をする。それは人類の始源的な存在となり、ヒトである碓シンジを人類補完に誘う役割を果たすことをも意味していた。

ヒトの造りしEVAに乗る、ヒトの造りし綾波レイ。人間との接触により3人目にして初めて自我を得た彼女は、新しい人類の道標として消えゆくことを望み、その存在に幕を下ろした。

### 表情 / 下着



→普段は感情が希薄であり、このような表情を見せる機会は少ないレイ。だが、ゲンドウやシンジなど、好意を抱いた相手に対しては、笑顔を見せるなど感情を表現することもあるようだ。



3人目とされるレイは、自分が何のため、誰のために生きているのかと自問し続ける。ある意味、最も思春期らしい思考である。



↑何かを思い詰めたように俯いているレイ。他人への興味を一切持ち合わせていない、というような態度をとることが多い彼女。だが、自我を得る過程で悩む様子には、人間的な葛藤が表れている。



正面

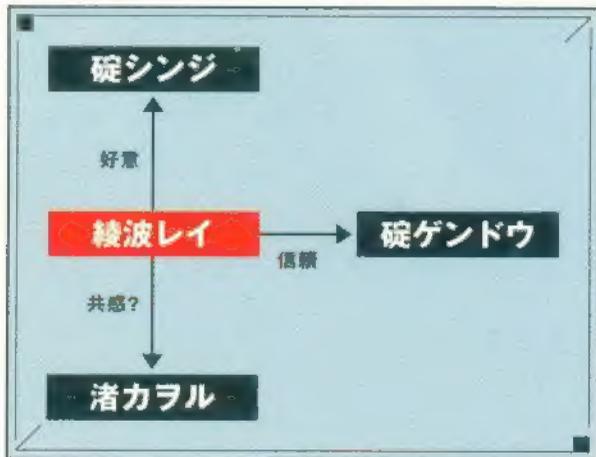


↑→レイの下着は白の上下という非常に地味なものの。デザインもオーソドックスで、やや成長が早い身体とは少々アンバランスのように見えるものの、シンプルな性格を反映したものといえるだろう。



背面

### 人物相関図



### 関連事項

- 碓シンジ
- 碓ゲンドウ
- 碓ユイ
- 渚カヲル



EVA初号機の専属操縦者であるサードチルドレン。人付き合いが苦手の反面、他人の眼を人一倍気にする繊細な心を持つ。

使徒との戦いの最中に自分自身の内面と向き合ったレイは、ひとりであることを怖れる「寂しい」という感情を知った。

# 綾波レイ

## が求めたもの



↑→直立不動のままに言葉を発するレイ。印象的な瞳と髪の色は、3人のレイに共通している。



↑→既に達観したような様子を見せる1人目のレイ。子供らしい無邪気さはまったく感じられず、造りものの様相がある。園児のような洋服だけが、幼さを強調しているようだ。

綾波レイはNERVによって生み出され、EVAのパイロットとして生かされ続けてきた。レイにとってはEVAに乗ることが生のすべてであり、EVAに乗ることで築かれるゲンドウとの繋がりに自身の拠り所を見出していたようだ。しかし、「私が死んでも代わりはいるもの」と語っていたことから、彼女は自分にスペアが存在するということを認識していたとも考えられる。ゲンドウとの絆を信じながらも、一方で自分はEVAを動かすための道具にしか過ぎない存在だということを、意識のどこかで感じていたのかもしれない。ところが、シンジとの出会いによって彼女の内面に微妙な変化が生まれた。悩み苦しみながらも自分を見つめてくるシンジに対し、レイは他の存在とは違う感情を抱いていたようである。第16使徒アルミスエルに侵食された際、初号機を守るために自爆する道を選んだこともその証左である。シンジとの関わり合いによって、自分の感情と明確な意志を得たレイ。その自我こそ、レイが存在の根底で欲していたものだったのだろう。



第16使徒の意表をついた動きに押され、レイ自身も体の一部を侵食されてしまう。シンジへの思いが初号機への侵食攻撃に繋がると思った彼女は、自らの意志で自爆した。涙を流したことで、人の心を持つ自覚が生まれたようである。



レイはヒトではない、という真実を示す地下施設。それらはレイのダミーであると共に、ダミープラグにも流用されていたようだ。

碇ユイが初号機との接触実験に失敗した後、突然ゲンドウの側に置かれるようになったレイ。NERV本部の最深度地下施設で育った彼女の出生にまつわる事項は、NERV内部でも極秘情報であったようだ。同地下のプラント内にはレイの形をした「入れ物」の身体が多数あり、リツコによれば、その中で魂が宿ったのはレイだけだったらしい。また、使徒であるカヲルと接触した際には「君は僕と同じ」と告げられており、お互いがヒトではないモノ同士であることが窺える。人類補完計画の際にリリスと融合したことから、「綾波レイ」とは、NERVの手によって生み出されたモノであったと考えられる。



# 碇ユイ

## との関係



初めてゲヒルンを訪れた時のレイはまだ子供の姿だった。なお、ゲンドウはこのとき「知人の子」とのみ紹介したが、赤木ナオコは幼いレイに、ユイの面影も見ていた。

ナオコに向かって「バアさん」と呼びかけるレイ。ナオコは激昂し、その場でレイを絞殺する。ゲンドウの真意を容赦のない言葉で浴びせかけた彼女は、のちにシンジが出会ったレイよりも鋭舌で狡猾な雰囲気がある。



ユイと入れ替わるようにしてゲヒルンに姿を現わしたレイは、ユイを想起させる雰囲気を持っていた。当時ゲンドウと愛人関係にあった赤木ナオコが、レイにユイの面影を重ねて嫉妬する程であり、まだ幼いレイを絞殺している。一方、ゲンドウもレイを特別視していたようで、自分の身を顧みずにレイを助け出すなど感情的な面を露呈した。さらにシンジはレイの中に母親の面影を感じるなど、レイ自身が気づかぬうちに、それぞれが彼女を通してユイの存在を見ていたようである。なお、容姿が似ている理由はユイのクローン体的存在であったためとも言われているが、その真相は明らかになっていない。

# 人類補完計画 に与えた影響



↑危険な実験や使徒との戦闘を繰り返してきた「二人目」のレイ。彼女が重傷を負うことも厭わなかったのは、絶対的信頼を寄せるゲンドウという存在があったためだろう。

←包帯を巻きつけ、ギプスで腕を固定しているレイ。EVA初号機、弐号機との共闘が可能になってからは重傷を負うことも少なくなり、拙いながらもヒトと交流する機会が増えていった。

ヒトの造りしモノとしてEVAに搭乗し、時として重傷を負うほど危険を省みない行為を繰り返してきたレイ。しかしEVAに乗ることで他人との絆を築いた彼女は、自らの「意思」といえるものを得た。その結果、信頼を寄せていたゲンドウを裏切り、リリスと融合する道を選ぶこととなる。

そうして、黒き月を胸に抱いて翼を生やしたりリリスは、アンチA.T.フィールドを展開。全人類をL.C.L.の海へと誘った。世界の始まりと終局がもたらされるかのように思われたとき、レイはシンジに向かって語りかけた。その際にはアダム之魂を持つカヲルもシンジの前に現れており、そのさまは始源の存在であるリリスとアダムが、新たな人類となるシンジに道を示そうとしているかのようであった。滅びの時を免れて未来を得る生命体はひとつしか選ばれず、ふたりはシンジに未来を託したのだろう。人類補完計画は結果的に未完に終わったが、レイが得た「意思」が少なからず影響を与えたことは間違いない。



地表に存在していた無数の生命はそれぞれが光の十字架へと変わり、赤い球体状になってレイの手の聖痕へと流れ込んでいく。その大いなる流れを司るレイの体の中には、取り込まれた生命体と様々な人間の想いが絡まり合い、渦巻いていた。



ユイの姿へと変わり、横たわるゲンドウに語りかけるレイ。ゲンドウが初号機に捕食される形でL.C.L.へと溶け込む瞬間も無言で見つめ続けていたが、ゲンドウの眼鏡を拾い上げた2人目のレイは、心が動いている様子である。

シンジが他者を望んだ瞬間、黒き月から溢れ出した赤い液体を浴びて、地表に落ちていったレイの体。その眼球を突き破って初号機が出現し、血を吹き出しながら徐々に崩れていくレイの周囲では、多くの生命が輝いていた。



リリスとなったレイと初号機によって人類補完計画が完了する寸前、レイはシンジの心の中に現れた。シンジの体に覆いかぶさり、他人との共存を示唆するような発言をするレイ。しかし、L.C.L.の海に全人類を取り込んだレイにとって、シンジが再び他者を望むことは自らの破滅と同義であった。それでもシンジに望みをかけるように語るレイは、どこか母性を感じさせるような穏やかな顔をしている。人類が新しい門出を迎える傍ら、崩れた片顔だけで地に突き刺さるレイの胸中を窺い知るすべは無い。「真実は心の中にある」と語るレイの言葉通り、彼女はシンジの心の中に生き続けるのだろう。

# 最後の瞬間 に見たもの

## 追加報告

### もうひとつの世界

シンジの精神世界に表れた、EVAの存在しないもうひとつの世界。そこでのレイは、転校生としてシンジやアスカに出会う。転校初日にトーストをくわえながら全力疾走する姿は、普通のレイからは想像できないものだ。また、言葉遣いも特徴的で、現実世界で単語を少しずつ区切るように話すレイとは大きく異なる。さらに、ここでのレイは喜怒哀楽がすぐ顔に出してしまうようで、くるくると表情を変えながら快活に物を言う。クラスで初めて紹介される時には少し気取った声色だったが、直後にシンジを発見して地声に戻るなど、年相応の言動を見せている。もうひとつの世界で生きるレイは、すべての面において現実世界のレイと対照的な存在だったといえるだろう。



交差点でシンジと衝突し、尻餅をつくというお約束のパターン。恥じらいながら慌ててスカートをおさえる仕草は可愛いが、シンジには見られてしまったらしい。

朝食のトーストをくわえながら全力疾走するレイ。なお、初日の遅刻は「かなりヤバイ」という自覚があったようで、「マジで急いでいた」そうである。



シンジをかばう発言をするアスカに対し、容赦ない口撃を加えるレイ。アスカもたじろぐほどのマシンガントークが炸裂した。



NERV本部内へと侵入した戦自の制圧部隊。目標は第2発令所のMAGI、およびNERVが保有する2機のEVAの確保。そして、EVA専属パイロットの排除であった。制圧部隊は目的完遂のためなら非戦闘員に対しての発砲射殺も許可されており、実際に銃火器のみならず、火炎放射器や爆弾等も用いた非人道的ともいえる掃討戦を展開。本部施設を次々と制圧して行く。

## 戦略自衛隊によるNERV本部の強制接收

### 使徒殲滅後の戦い—— ゼーレのシナリオ

#### TACTICS SHEET

特務機関NERVの重要な任務であった使徒の殲滅は、第17使徒タブリスの排除によって完遂された。この時点においてNERVの目的は、人類補完計画を残すのみであったが、NERV総司令である碇ゲンドウに反意を感じたゼーレは、NERVの強制接收を決意。日本国政府を介して、戦略自衛隊（以下、戦自）を送り込んだ結果、戦自とNERVの熾烈な攻防戦が芦ノ湖付近で繰り広げられることとなった。最後の敵は人間——NERV副司令である冬月コウゾウの言葉である。

日本国政府は、まず「特務機関NERVの法的保護の破棄、及び指揮権の日本国政府への委譲」を意味するA-801を発令。NERVへ事実上の降伏を促すと同時に、NERV本部の中核であるMAGIへのハッキングを開始した。しかし、NERV側はMAGIのハッキングを回避。このNERVによる抵抗は降伏

勧告の拒否とみなされ、日本政府は戦自による本部施設の武力接收行動へと移るのであった。

戦自の攻撃に対するNERV本部の防衛力は、ほぼ無力といえた。NERV本部は、あくまでも対使徒戦を前提とした施設であるため、本格的な対人要撃システムは用意されておらず、せいぜいテロ対策止まりの装備が関の山であった。これに比して、戦自側は対人戦闘のプロフェッショナルである。戦自制圧部隊がNERV本部内に侵入した時点で、戦闘は自ずと一方的、かつ凄惨を極めたものとなった。事実、完全に防戦一方となったNERV側は、最終的に第2発令所への侵入まで許してしまっている。さらにこの段階で戦自は初号機を確保しており、勝敗はほぼ決したかに見えた。しかし、ここで戦闘不能だったEVA弐号機が奇跡的に起動したことで、戦闘は新たな局面へと突入する。EVA弐号機はNERV本部に迫る戦自の地上部隊の殲滅を開始、ジオフロントにおける戦況を一変させた。が、ゼーレはEVA量産機を投入。戦自、および日本国政府の思

惑とは別に人類補完計画へのシナリオは着々と進んでいくのである。

そもそもNERV強制接收へ向けた一連の日本国政府の行動は、「NERVが秘密裏に進行させてきた人類補完計画は、人類を滅亡させるサードインパクトの誘発を目的としたテロリズムである」とするゼーレからの煽動的な働きかけがあったからであるとされる。つまり日本国政府、および戦自としてはあくまでもサードインパクトの阻止を目的としていた。しかし、実際は逆にNERV本部を舞台にした人類補完計画、すなわちサードインパクトを発生させるための下準備をさせられていたに過ぎなかったのは、皮肉な結果である。



- 戦略自衛隊
- 特務機関NERV
- サードインパクト
- ゼーレ
- 日本国政府



NERV本部接收のため、芦ノ湖付近には航空戦力や特殊部隊などを含む1個師団の戦略自衛隊が集結。作戦行動を展開した。

NERV強制接収の概要

NERV本部では戦自の攻撃に対して、当初は碓司令と冬月副司令の元、葛城三佐が戦闘指揮を執っていた。しかし、戦自の侵入を確認した段階でなぜか碓司令は発令所を退席。その後、サードチルドレンが敵制圧下の区画に取り残されていることが判明すると葛城三佐が直接救出へと赴いたため、現場の指揮は冬月副司令にゆだねられた。そして、発令所では生き残った数人のオペレーターたちが刻々と変化していく戦況に対応。最終的には制圧部隊に対し、発令所への部隊の侵入を許したものの、サードインパクト発生まで抵抗を続けている。



NERVにとって戦自は使徒よりも性質の悪い敵といえた。戦況が悪化していく中、最終的に現場の指揮は冬月副司令へとゆだねられる。



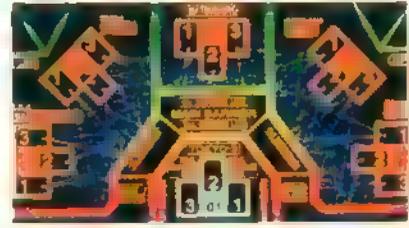
双眼鏡で戦況を監視して確認する戦自の指揮官。戦自側はNERV本部内部での白兵戦と外部からの砲撃の両面作戦を展開していく。

戦自によるNERV本部への派兵は、サードインパクト阻止という大儀の元に行なわれた。だが、派遣された1個師団は、事前に第3新東京市跡地近辺に展開、戦闘配置されており、当初から武力行動によるNERV接収が想定されていたことがわかる。

NERV強制接収の経緯

1 MAGIへのハッキング

本部接収の前哨戦は、MAGIに対する、世界各国に設置されている計5つのMAGIタイプのコンピュータによる一斉ハッキングであった。圧倒的な戦力差に一時は制圧されかけたものの、緊急時特例により禁固を解かれた赤木リツコ博士が、MAGI内部で直接プログラミングを行ない、プロテクトすることに成功。MAGIへのハッキングは阻止された。



NERV本部のMAGIに対し、世界各国のMAGIタイプのコンピュータから同時にハッキングが開始された。だが、赤木博士がこれを食い止めた。

2 戦自によるNERV本部への直接攻撃開始

第3新東京市市街区跡地周辺に、事前に待機していた戦自の戦車部隊、ロケット砲部隊、戦術機部隊がNERV本部に対し一斉攻撃を開始。NERV側も第一種戦闘配備を取りこれに応戦。但しこの戦自の第一波攻撃は、本部施設への直接攻撃というよりも、周辺に敷設されている防衛網、およびレーダーサイトの破壊と寸断が主たる目的であった。



戦自はNERV本部への中距離砲撃を開始。しかし、これは本部自体への攻撃ではなく、本部の防衛網やレーダーサイトを狙ったものである。

3 戦自制圧部隊、NERV本部内へ侵入

接収作戦における主要部隊とも言うべき制圧部隊が、NERV本部内へと侵入。この部隊はいわゆるレンジャー的な白兵戦、および施設の爆破など工作活動に長けたチームにより編成されており、戦闘員、非戦闘員を問わない無差別発砲が許可されていた。さらに制圧に際しては火炎放射器による掃討など、徹底的な抹殺作戦が展開された。



戦自の接収作戦の主力となったのは、対人要撃や白兵戦に長けた部隊であった。本部に侵入した彼らは、無差別にNERV職員を抹殺していく。

4 戦自、NERV本部第2層完全制圧

戦自の目的がEVAパイロットの抹殺も含まれると察知した葛城三佐の命令で、とりあえずセカンドチルドレンを式号機内に退避。一方で制圧部隊に第2層までをたやすく完全制圧され、続けて第3層へも侵攻を許してしまう。そこで葛城三佐は、応戦中のNERV戦闘員を退避させ、第3層の隔離、破壊を決断。ペークライトを注入し制圧部隊の足止めを図る。



戦自の制圧部隊の攻撃は、負傷者さえも射殺する徹底ぶりであった。NERV本部内は無惨に撃ち殺された職員たちの死体であふれた。

5 戦自、n<sup>2</sup>兵器投入

順調にNERV本部施設を制圧する戦自であったが、すべてが順調であったわけではない。初号機の封鎖や第1発令所の爆破には成功したが、発見したサードチルドレンの抹殺には失敗。第2発令所のオリジナルMAGIの確保にも難航していた。そこでn<sup>2</sup>弾道弾を投下することでジオフロントを露呈させ、外部からも直接斉射攻撃を開始する。



戦自はn<sup>2</sup>弾道弾による攻撃を遂行。ジオフロントの露呈をさせることに成功する。さらにミサイルによる追い打ちがNERV本部を襲う。

6 式号機の起動

ジオフロント地底湖に退避させられていた式号機であったが、突如正常起動を果し戦線に復帰する。使徒に比類する圧倒的な戦闘能力を持つEVAに対して、戦自はまったく太刀打ちできず。かろうじて式号機のアンビカル・ケーブルを切断するという戦果は挙げるものの、航空戦力を主体とした外部攻撃部隊は瞬時に壊滅してしまう。



戦線復帰した式号機の戦闘能力は凄まじく、群がる戦自のVTOL戦闘機を次々と撃破した。その強さはひたすら圧倒的であった。

7 ゼーレ、量産機投入

式号機による戦自攻撃部隊の劣勢を確認したゼーレは、ロールアウトしていた量産型EVAシリーズ全9体を投入。内部電源にて稼働する式号機の活動時間は3分38秒程度であったが、式号機は善戦。一時は全機を沈黙させるも、強力な再生能力を持ち、活動限界のない量産機は、最終的に式号機を片倒。量産機の前に式号機は、凄惨な最期を遂げる。



空中を舞うEVA量産機。ダミープラグで起動するS<sup>2</sup>機関内蔵型である量産機は、強力な再生能力と無限の活動時間で式号機を壊滅した。

8 初号機の起動と戦自の壊滅

式号機の壊滅後、本部ビルを突き破り巨大な閃光と共に、初号機が出現。光の羽根を掲げエネルギー流を巻き起こしつつ滞空するこれまでにない姿が確認されている。その後、突如ロンギヌスの槍が月面より飛来し、初号機と接触。人類補完計画が発動し、サードインパクトによる強大な物理的衝撃波に呑み込まれ、戦自の全部隊は壊滅した。



起動した初号機は上空で光の翼を掲げエネルギー流を発する。その禍々しい姿を戦自の隊員は「まさに悪魔」と表した。

特記事項

戦自自衛隊の目的

戦自のNERV本部接収作戦は、人類滅亡に繋がると見られるサードインパクトの阻止を名目にして展開された。具体的には、まず本部第2発令所に設置されているオリジナルのMAGIを可能な限り無傷で確保すること。さらに、NERVの主力兵器としてサードインパクトの発動と奪取されたNERV保有の2体のEVAの製造、そしてその専用パイロットの発見、および訓練であった。

① NERV本部の占拠



MAGIの確保はNERVの全システム掌握に等しい。それによりNERV本部の占拠を達成し得た。

② EVAの確保



制圧部隊はペークライト液が注入された初号機、サードパイロットの搭乗を物理的に阻止するものが目的だ。

③ EVAパイロットの射殺



EVAを封鎖するだけでなく、その専用パイロットについても遠くから射撃が繰り返されている。

## 地上、およびジオフロントでの戦闘

戦自のNERV強制接收作戦の要となったのは、施設内部に侵入した制圧部隊であったが、その側面からの支援として各種の戦闘車両、戦闘機等による攻撃が併行して行なわれていた。また戦自とは別にEVA量産機も投入されている

## 地上

制圧部隊の本部侵入に先立ち、戦自の戦闘部隊がNERVを3方向から攻撃する形で侵攻を開始。強羅方面より特科大隊、御殿場方面より2個人隊、島方面より航空部隊が周辺防衛網のレーダーサイトを次々と撃破、制圧部隊侵入を支援した。またn弾道弾によりジオフロント上部に穴を開けた後は、内部へミサイル斉射や地底湖への爆雷攻撃なども行なっている。



戦自の戦闘部隊は、まずNERVの目となる周辺防衛網、設置された多数の光学観測所を的確に狙撃した。



戦自陸戦部隊の主力戦闘車両であるロケット砲トランク。この他に陸上戦力として装甲戦車部隊、航空戦力としてVTOL戦闘機部隊が展開。また式号機迎撃、際してはさらさら大型ミサイルを搭載した要撃機も投入された。



## ジオフロント

ジオフロント内地底湖の式号機に対し、戦自側は弾道弾の爆発で出来た開口部より爆雷攻撃を行なうが、突如式号機が起動。殲滅のため一斉攻撃を加えるも大敗。そこへEVA量産機が飛来し、式号機との戦闘が開始される。数の劣勢をもとめせずに戦いを優位に進めた式号機であったが、活動限界時間に達し、最終的に量産機によって撃破、捕食される運命を遂げた。



戦自の攻撃でアンビリカル・ケーブルを失った式号機は、3分半ほどの内蔵電源だけで9体の量産機と果敢に戦った。



活動限界に達した黙った式号機に対し、量産機は群れをなして襲いかかり、そのコアを捕食した。それは目を覆いたくなるほどの残酷かつ衝撃的な光景であった。

技術調査

MAGIの自律防御

日本の松代にあるMAGI2号機を始め、アメリカのマサチューセッツ、中国の北京、ドイツのベルリンとハンブルクの計5つのMAGIタイプコンピュータから一斉にデータ攻撃（ハッキング）を受けたMAGIは、デフォルトでのファイアウォールではその侵入を防ぎきれず、対抗するために自律防御をさせる必要があった。その起動作業を短時間でこなせる人材は、当時反逆罪にて拘束中であった赤木リツコ博士のみであった。拘束を解かれた赤木博士は、作業開始からわずか数分程度で劣勢を挽回し、一気に第666プロテクト——Bダナン型防壁を展開。62時間、外部からのデータ攻撃に対してのMAGIの完全プロテクトに成功した。それは事実上MAGIへのハッキングを不可能とするものであった。



侵入されたシステム外部からサポートするNERV職員たち



カスパー内部にて、赤木博士がシステムを操作する様子

追加報告

ファーストチルドレンの行方

敵自の制圧部隊がNERV本部に突入した際、葛城三佐はEVAパイロットの生命の危機を察知し、彼らを守るべく各自の所在確認を行なった。しかし、通常本部内におけるEVAパイロットの所在地は、MAGIによって常に捕捉されているはずのだが、ファーストチルドレンだけは行方不明となっていた。このとき、ファーストチルドレンは、ターミナルドグマ内にて待機しており、MAGIがロストした理由は不明である。ただし、制圧部隊侵入後の緊急事態であるにもかかわらず発令所を離れず待機命令、そこでファーストチルドレンと接触していたことから、この両者の行動には何かしらの重要な意味があったことは容易に推測できる。ふたりの接触は、一時的なものとは異なる発令所によっての人類補完計画への思惑と何らかの関係があったようだ。



敵自の制圧部隊作戦が進行して行く中、葛城三佐はファーストチルドレンとファーストチルドレンと接触している

▶ 綾波レイ

当初より謎めいた部分の多いファーストチルドレンだが、第10使徒戦では番号機の自爆行動で生死が危ぶまれたものの、本戦中に生死を異にする



NERV本部の制圧に9機ものEVA量産機を投入したゼーレ。それを迎え撃つ弐号機は、9対1という多勢に無勢の戦いを強いられる。

## 新世紀年表

1995年12月17日  
シンジの誕生

## 二重螺旋の使徒

第16使徒は、大涌谷上空付近で滞空を続けていた。目標へ接近する零号機。そこへようやくミサトが発令所へと到着した。パターン・青からオレンジへ周期的に変化を繰り返す不可解な使徒の反応には、MAGIもデータ不足のため回答不能であった。「先に手は出せないか。レイ、しばらく様子を見るわよ」ミサトが臨戦待機を指示したその時、使徒は紐状へとその姿を変化させ零号機へと向かってきた。とっさに使徒を掴みライフルで反撃する零号機。だが、手応えはない。

A.D.2015

●第3新東京市

01

### 01 アスカ、ヒカリの家に転がり込む

第15使徒戦で使徒から精神攻撃を受け、為す術なく敗れたアスカは、シンジやミサトとの共同生活を捨てヒカリの家にやっかいになっていた。学校へも行かず、心を閉ざし延々とTVゲームに興じ続けるアスカ。そんなアスカはヒカリにふと気持ちを漏らす。「私、勝てなかったんだEVAで。もう私の価値なんて無くなったの。どこにも……。嫌い、大っ嫌い。みんな嫌いな。でも一番嫌いなのは、私。なんかもう、どうでもよくなっちゃったわ」自暴自棄の彼女に「私は、アスカは良くやったと思うもの」ヒカリは優しく応えた。



家出したアスカの部屋にはシンジたちへの入室禁止を告げる札がかけられていた



転がり込んだヒカリの家で アスカはまるで他人との接触を拒絶するかのようにゲームを続けていた。だがその晩 アスカはヒカリに自己嫌悪する自分の気持ちを明かす。そしてヒカリは、アスカのすすり泣く声を聞いた。

A.D.2015

05

### 05 使徒、零号機に攻撃

強羅絶対防衛線を突破した使徒は、大涌谷上空付近で滞空を続けていた。目標へ接近する零号機。そこへようやくミサトが発令所へと到着した。パターン・青からオレンジへ周期的に変化を繰り返す不可解な使徒の反応には、MAGIもデータ不足のため回答不能であった。「先に手は出せないか。レイ、しばらく様子を見るわよ」ミサトが臨戦待機を指示したその時、使徒は紐状へとその姿を変化させ零号機へと向かってきた。とっさに使徒を掴みライフルで反撃する零号機。だが、手応えはない。



出撃した零号機は、スナイバフィールドを構えて使徒の近くへと接近してゆく



二重螺旋の体躯を持つ第16使徒は、リング状で定点回転を続けて滞空していたが、零号機の接近を察知したのか、突如紐状に姿を変え、鋭く零号機へと向かってくる。零号機のA.T.フィールドも突き抜けて、使徒は機体に接触した

2015年

アスカ、ヒカリの家に転がり込む



リッコ、祖母から連絡を受ける



ゲンドウ、ゼーレから召喚される

A.D.2015 ●NERV本部

02 リツコ、祖母から連絡を受ける

同じ頃、NERV本部では赤木リツコが祖母からの電話に出ていた。リツコが大事にしていた猫が行方不明になったのだという。死を悟って姿を消したと察したリツコは「猫にだって寿命はあるわよ。もう泣かないで、おばあちゃん」と型通りになだめる。「時間が出来たら一度帰るわ。母さんの墓前にも、もう3年も立ってないし。今度私から電話するから」だがその口調は、あくまでも淡々としていた。



本部の研究室で祖母からの電話を受けるリツコ。電話口の向こうの悲しみにくれる祖母の言葉にも、リツコは淡々と受け答える。



「そう、あの子が死んだの」さして感傷もなく愛猫の死を口にするリツコ。その視線は、アスクに置かれた猫のマスコットに注がれた。

A.D.2015 ●?

03 ゲンドウ、ゼーレから召喚される

ゲンドウはゼーレから詰問を受けていた。「ロンギヌスの槍。回収は我々の手では不可能だよ」「なぜ使用した?」口々にゲンドウを非難するゼーレのメンバー。だが「やむを得ない事象です」とゲンドウは眉一つ動かすことなく受け流す。そこへ使徒出現の報告がもたらされた。「また後ほど」と審議中断を要請したゲンドウに、ゼーレのメンバーは皮肉いっばいに言った。「その時、君の席が残っていたらな」



モノリスが立ち並ぶ空間でゼーレは第15使徒戦、於いてゲンドウがロンギヌスの槍を独断で使用した件について尋問を行っていた。



「從、ゼーレを真切る気か?」退席したゲンドウに対してモノリス01の男、キール議長は不審の念を露わにするのであった

A.D.2015 ●第3新東京市

04 第10使徒、出現

使徒出現の報告を受けて本部へ向かうミサトは、車の中から発令所へ作戦指示を出す。「零号機を32番から地上へ射出。式号機はバックアップに回して」初号機は未だ凍結中。その車上からミサトは使徒の姿を確認した。零号機発進後、ゲンドウは式号機にも発進命令を下す。「かまわん。困ぐらいには役に立つ」。「このことまたこれに乗ってる」その式号機の中では、アスカが自嘲気味に呟きを漏らしていた。



本部へと急ぐミサトは、車中より発令所へ作戦指示を出す。しかしミサトの権限では初号機の凍結を解除することはできない。



「フン、私が出たって足手まといだけじゃないの、どうでもいいわよ、もう、出撃命令に対してアスカは、無気力に独りごちる

●大涌谷付近

06 使徒、零号機を侵食

零号機と物理的接触を果たした使徒は、機体を侵し始めた。A.T.フィールドも使徒に侵食されて行く。「使徒が積極的に一次的接触を試みているの、零号機と?」驚愕するリツコ。零号機の機体に葉脈のような筋が広がって行き、生体部品が侵されていく。コクピットのレイの体にもまた葉脈の如き筋が広がり、苦痛と快楽を伴う感覚に襲われる。危険な状況にミサトは式号機に援護を命じるが



零号機の腹部を侵す使徒。ウネウネと筋が広がり、機体を侵食して行く。数秒の間、生体部品の5%が侵され零号機は危険な状態に



これまでになし、EVAに対する使徒の攻撃。というよりもその接触行動を目的の当たり、リツコは驚きの声を上げる

07 アスカ、式号機の起動に失敗

零号機を援護するべく地上へと送り込まれた式号機に、ミサトから発進指示が飛ぶ。「式号機リフトオフ」だが式号機は微動だにしない。アスカとのシンクロ率が低下しすぎて起動できないのだ。式号機のコクピットの中で、アスカは嗚咽混じりに呟いた。「動かない、動かないのよ……」「このままじゃ餌食にされるわ。戻して、早く!」ミサトはやむを得ず、式号機の回収を命じた。



式号機のインダクションレバーを動かすアスカだったが、空しく音を立てるだけで、式号機は起動どころかまったく反応しなかった



起動できない式号機に向かって、使徒が接近する。急いで回収を命じるミサト、式号機は出撃することなくケインへと戻されてゆく

08 レイ、使徒と対峙する

なおも使徒に侵食され続ける零号機。そのコクピットの中では、レイもまた肉体を使徒に触まれていた。不気味に伸びてゆく筋がレイの顔面にまで達した時、彼女は別の存在に気がつく。「誰? EVAの中の私? いいえ、私以外の誰かを感じる。あなた誰? 使徒? 私たちが使徒と呼んでいるヒト?」もうひとりのレイの姿として現われた使徒は、レイに囁きかける。「私とひとつにならない?」だがレイは拒絶した。



レイの肉体も、使徒に侵食されてゆく。苦痛に喘ぐレイ。次第に意識が遠のいてゆく中、レイは別の存在、使徒を感じ始める。



レイの深層意識の世界なのか? 不思議なオレンジ色の空間の中で、彼女は自分と同じ形をしたもの、使徒と語り合っていた

第16使徒、出現

使徒、零号機に攻撃

使徒、零号機を侵食

アスカ、式号機の起動に失敗

レイ、使徒と対峙する

A.D.2015

09 レイ、生まれて初めて涙を流す

使徒との対話は続く。心か痛いというレイの姿をした使徒は、寂しいという感情を理解できない。「ひとりが嫌なんですよ、それを寂しいというの」「それはあなたの心よ」次の瞬間、コクピットの中のレイのほおを一筋の涙が伝った。「これが涙？泣いているのは私？」



水の中に立つもうひとりのレイと語り合うレイ

生まれて初めて流した自分の涙を見たレイは驚きの表情をみせた

10 初号機、零号機の救出に向かう

その時、初号機の凍結命令が解除された

レイの感情に反応したかのように、零号機の機体の一部が膨張し、奇怪な物体へと変貌を遂げた。これを見たゲンドウは、冷静に告げた。「初号機の凍結を、現時刻をもって解除。直ちに出撃させる」突然のことに驚くミサトは、当惑しつつも初号機発進を命じる。そのやりとりを無線で聞いていたアスカは、さらに不快な思いに身を焦がしていた。そして、初号機が地上で戦闘中の零号機の援護のために送り出される。



零号機の機体から突然膨張して現われた奇怪な物体。零号機はまさに危機的状況にあった。



零号機の窮地にゲンドウは、初号機の凍結を解除し出撃命令を下す。ミサトは当惑と不信感を拭えなかった。



「何よ、私の時は出さなかつたクセに」憤るアスカ。その声は涙混じりであった



地上へと送り出された初号機はA.T.フィールドを全開にして零号機救出に向かうのであった

A.D.2015

●大涌谷付近

17 零号機、自爆により使徒殲滅

最期の瞬間、レイはゲンドウの笑顔を見た

A.T.フィールドで零号機の腹部付近に押さえ込まれた使徒が潰れてゆく。「コアが潰れます！臨界突破！」死のカウントダウンの如く、モニターを読み上げる伊吹マヤの声が発令所に響く。最期の瞬間、レイの目にはいつかゲンドウが彼女に見せた笑顔が映っていた



A.T.フィールドを反転させ使徒を押し込め込んだ零号機の腹部は不気味に肥大化した



自爆直前、ハッと振り向いたレイにはゲンドウの笑顔が見えた。彼女の瞳から一筋、涙がこぼれ落ちる。



巨大な爆炎が第3新東京市を丸ごと包み込む。その業火の中で無事な「たのは初号機だけであった。

「生存者の救出、急いで」声を震わせるミサト。リツコは皮肉混じりに言う「もしいたらの話ね」

A.D.2015

●第3新東京市

14 リツコ、爆心地を調査する

第3新東京市は完全に消滅。芦ノ湖からの湖水が流入し新たな湖となり、街は消えた。爆心地付近の調査が行なわれ、そこで零号機のエントリープラグも発見される。だがその残骸を見たリツコは「このことは極秘とします。関係部品は処分して」と指示を与えた。



クレータと化した第3新東京市の周辺調査が行なわれる



黒こげになったエントリープラグの残骸の中にリツコは何を見たのか

2015年

レイ、生まれて初めて涙を流す



初号機、零号機の救出に向かう



使徒、初号機への侵食を開始



レイ、自爆を決意



●大涌谷付近

11 使徒、初号機への侵食を開始

使徒は初号機に襲いかかり、さらに侵食を試みる

初号機が存在に気づいた使徒は、その体躯を初号機へと走らせる。素早い動きに、初号機は反撃する間もなくパレットガンを破壊されてしまった。素手で使徒を捉えたが、そこから使徒は侵食を開始。シンジの手首にも葉脈状の筋が広がる。ミサトの指示でプログ・ナイフを使い応戦する



使徒は蛇か鱗首をまたげるように動く。間髪をいれず、初号機へと迫る



使徒に侵食されつつ応戦する初号機。シンジの手には筋が広がる。それは奇怪にもヒトの顔のような形になり、つごめくのであった



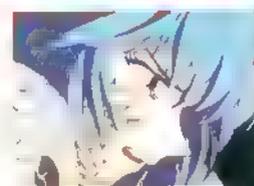
使徒の先端はなんとレイの姿に変容した。シンジにはレイの笑い声が聞こえ、恐怖にあののく



使徒の奇異な挙動を見たレイは、それが自分のシンジへの思いを反映しているのだと悟った

12 レイ、自爆を決意

レイはA.T.フィールドを反転させ、使徒を押さえ込む。途端に、使徒は零号機まで引き戻されてゆく。零号機のフィールドが限界に達し、機体はもはや崩壊寸前となる。「レイ、機体は捨てて逃げて！」ミサトが叫ぶ。「ダメ。私がいなくなったらA.T.フィールドは消えてしまう。だからダメ」力を振り絞り、レイは自爆装置を作動させた。「レイ！ 死ぬ気!?」



シンジを使徒から守るためレイが取った手段はA.T.フィールドを反転させて使徒を押さえ込むことだった



肉体全体を触れられながらもレイは必死の思いでエントノーブラグ内後部に装備された自爆装置を起動させるのであった

A.D.2015 ●NERV本部

15 リツコ、過去を振り返る

研究室にいたリツコはふと思立ち、パソコンで高校時代の自分と母とゲンドウとの写真画像を開き命ややかに見つめる。髪を染める前の自分も冷たい顔をしていた。一方ゼーレのメンバーは会議を開いていた。残る使徒は後1体。「約束の時は近い」と言うキール議長に、メンバーからゲンドウへの責任追及の声が上がる。「新たな人柱が必要だ、彼に対する」「そして事実を知るものが必要だ」



リツコが冷めた眼差しで見つめる先には、やはりリツコな面持ちを帯びる高校生の自分。そして若かりし母とゲンドウの姿があった

会議を行なっているゼーレのメンバー。ロンギヌスの槍に続き零号機までも失う事態に及び、ゲンドウへの責任追及の声が上がる



A.D.2015

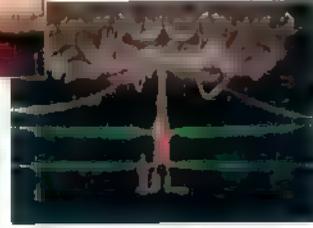
16 シンジ、ミサトを拒絶する

自室で呆然としているシンジ。イヤホンから流れる音楽も空しい。「ミサトさん、出ないんだ涙。悲しいと思ってるのに出ないんだよ涙が」そんなシンジの手にミサトはゆっくりと触れようとする。が「止めてよ！ ミサトさん」シンジは強く拒絶した。戸惑うミサトはベンベンに声をかけるが、またも拒絶「そっか、誰でもいいんだ。寂しかったのは私の方ね」狼狽するミサトであった。



部屋でぼんやりしているシンジの前に、ミサトが現われた。虚ろな思いを口にするシンジの手に、ミサトは優しく触れようとするか

ゲンドウと冬月はセントファットグマにいた。冬月は呟く「レイか。彼女は俺の絶望の産物であり、未だお前の希望のよりしろでもある」



●第3新東京市

17 ミサト、病院から連絡を受ける

翌朝、机に突っ伏していたミサトは電話の呼び鈴で起きた。それは、驚くべきことにあの大爆発の中レイが生きていたことを知らせる電話であった。話を聞いたシンジは、病院へレイの見舞いにやってきた。「ありがとう、助けてくれて」感謝するシンジだったが、レイは要領を得ない。「そう、あなたを助けたの?」「うん、覚えてないの?」「いえ知らないの。多分私は3人目だと思うから」



机に突っ伏して一夜を明かしたミサトの元に、電話がかかってきた。気怠そうに、出たミサトだったが、その内容、眠気は一気に吹き飛んだ

病院には、包帯姿のレイがいた。「良かった、彼が無事で」安堵の気持ちを口にするシンジ。たかふたりの会話とはどこかかみ合わなかった



零号機、自爆により使徒殲滅

リツコ、爆心地を調査する

リツコ、過去を振り返る

シンジ、ミサトを拒絶する

ミサト、病院から連絡を受ける

## 戦略自衛隊

組織の誕生とその概要

自衛隊 (Japan Self Defense Forces) — 内閣総理大臣が最高指揮監督権を有し、防衛大臣が隊務を統括。陸、海、空の3自衛隊の統括組織として統合幕僚監部が置かれ、防衛大臣は統合幕僚長を通じて3自衛隊に命令を発する。専守防衛に基づき国民の生命と財産を守ることを基本理念とする日本国の軍事的組織である。法令上は軍隊に位置付けられていないが、「国の平和と独立を守り国の安全を保つため、直接侵略及び間接侵略に対し我が国を防衛すること」を主たる任務とするに足る組織であり、実質的には通常の軍隊にもひけをとらない軍事力を備えている。バレンタイン休戦臨時条約締結後、アメリカ、欧州各国、アジアとアフリカの主要国といった国連加盟各国は自国軍隊を国連軍に委託することとなるが、日本もこの世界的な流れを汲み、主力部隊としての陸、海、空の3自衛隊全体を国連軍に委託することとなる。

その一方で、日本国は新たな独自戦力の保有を模索した。西暦2003年、セカンドインパクトのあおりを受けて勃発した南沙諸島を巡る中国とベトナムの紛争を機に、日本国国防省直轄の組織 — 戦略自衛隊 (Japan Strategy Self Defense Force)、通称「戦自」を創設するのである。自衛隊を国連軍に編入された日本にとって、唯一、独立した指揮系統の部隊である戦自は、国連軍が平和維持に努めているセカンドインパクト後の世界において、あえて国連を介さない迅速な対応を行なうための特殊な軍事力である。また、自衛隊と同等の各種通常兵器だけでなく、n兵器、BC兵器を保有するなど、その軍事力は自衛隊を凌ぐ規模であったとも言われている。なお、過剰なまでの軍事力を有した戦自であったが、使徒襲来に対する軍事行動は行なっていない。その背景には、特務機関NERVという不透明な組織に猜疑心を抱いていた日本国政府の思惑 — 対NERV戦をも見越した危機意識が反映されたものと思われる。



- 日本国政府
- 自衛隊
- ゼーレ
- A-801



立法 司法、行政の作用を包含する日本の統治機関。旧東京壊滅後 2003年に長野県の第2新東京市へと移管された。



戦略自衛隊

自衛隊とは一線を画する  
特殊な軍事組織

自衛隊とは一線を画し、日本国直属の組織として創設された戦略自衛隊。その理念から言えば、対使徒戦に当然投入されるべき戦力である。しかし、特務機関NERVの設立により結果的にその役割を担うことがなくなった彼らは、意外な作戦に従事することとなる。日本国政府に直接指示できる存在——ゼーレが、NERVとの戦いに駆り出したのである。自国防衛のために創設された戦自は、結果的に一組織の意思のもとで作戦を遂行する軍事力として利用されるという末路を辿ることとなった。なお、戦自は約1個師団を投入してNERV強制接収を行なった。その侵攻はEVA式号機による反撃を受けて多大な被害を受けたうえ、EVA初号機専属操縦者の強制排除に失敗。結果的に作戦自体を完遂することなく、初号機を依代とした人類補完計画が発動されることとなった。



EVA式号機との戦闘においては有効なダメージを与えなかつたものの、アンヒカル・ケーブルの切断という最低限の仕事はこなした

特記事項

関連施設について

自衛隊とは内部部局、施設等機関、特別機関及び海、空の3自衛隊を含んだものである。全体的な構成については明らかになっていないが、戦略自衛隊についても同様は、いくつかの特別機関が存在している。東城界のつくばには戦略自衛隊の技術研究本部が置かれており、NERVは対第5使徒戦を展開する際の試作の自走型電子雷を開発している。これはNERVが実質的に協力を要請した事例であり、戦自の技術研究本部が、NERVに肉薄する高い技術力を有していたことの証左といえる。なお、戦自は基本的に日本国政府以外の組織とは関係を持たない組織だが、対第5使徒戦の事例のように、日本国政府が許可した組織に対しては協力を強制される立場にあつたようだ。



実際のNERV防衛に驚きを隠せない戦略自衛隊つくば技術研究本部の面々。日本国政府発行の徴発令状を受けたため、強制的な試作型電子雷の取り立てが実施される事になった



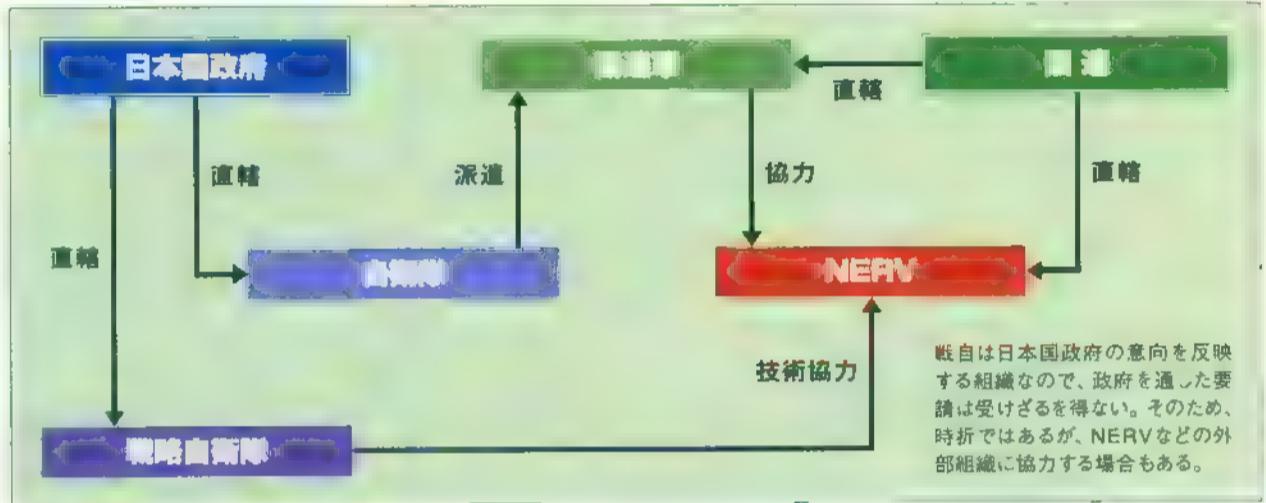
開発された試作型電子雷は、NERVの手によってボルトロスナイパータイプに改修。ATフィールドももともと第5使徒戦を想定していたため、かなりの火力を発生

戦略自衛隊の  
組織概要

日本国政府直属の組織である戦略自衛隊。その創設理由は「自国防衛」であり、創設当初は対外組織とは何ら関係を持たない組織であった戦自は、使徒襲来により変貌を余儀なくされた。

セカンドインパクト発生以降、世界各地に広がる紛争の戦渦を治める役割は国連が担ってきた。バレンタイン休戦臨時条約締結後に結成された国連軍が、それらを収束の方向に導いたのである。日本国も自衛隊を国連軍に委託したが、独自の観点から、政府直属の軍事組織である戦略自衛隊を創設。対外組織とは何ら関係を持たない軍事力を自国防衛にあて

● 対外組織との関係



戦略自衛隊の活動と  
保有する主な戦力

日本国が自衛を防御するために創立した新たな軍事組織であり、その軍事力は世界屈指と言われた戦略自衛隊。しかしその活動内容は、非常に特殊なものだった。

戦略自衛隊の活動理念は、専守防衛を旨とした自衛隊の理念とは異なっている。その戦力は世界屈指とも言われているが、2015年における作戦行動は、陸上、航空戦力によるNERV強制接収のみで、日本国への使徒襲来という危機に際しても出動しなかつたことがその証左であろう。なお、戦自が保有する兵器については自衛隊とほぼ同様のものがあったが、独自の研究施設などを有していたためか、中には特殊な兵器も存在したようだ。また兵科についても厳しい訓練の跡が見受けられ、NERV強制接収時には速やかに作戦を展開していった。



速やかに作戦を展開する戦自の面々。少年に銃を向ける、M兵器を使用するなど、NERV強制接収時の行動に躊躇は見受けられない

● 陸上戦力

主な陸上戦力として、大型の主砲を備えた戦車、装輪式の装甲戦闘車両、6連装型ロケットランチャー車両、カチューシャタイプの多連装ロケットランチャー車両、爆雷投下車両のほか、通信、補給用の非戦闘車両などを有する。自衛隊(国連第3方面軍)が有する兵器と同様の外観のものも多数含まれているが、それらもすべて戦略自衛隊仕様で改修されていたようだ。



ロケットランチャー車両はMLRS(多連装ロケット発射システム)を持ち、短時間で大量の火力を投入できる



多連装ロケットシステムの弾頭に爆雷を用いた、爆雷投下車両。NERV本部の地底湖への攻撃も想定されていた。



明らかに自衛隊員とは異なる、特殊なスーツに身を包んでいる隊員たち。さらにNERV本部突入部隊はヘルメット・コックルを着用していた。なお、後方で指揮をする師団長という階級の高い者は、肩部のデザインが異なるスーツを身に着けている

● 航空戦力

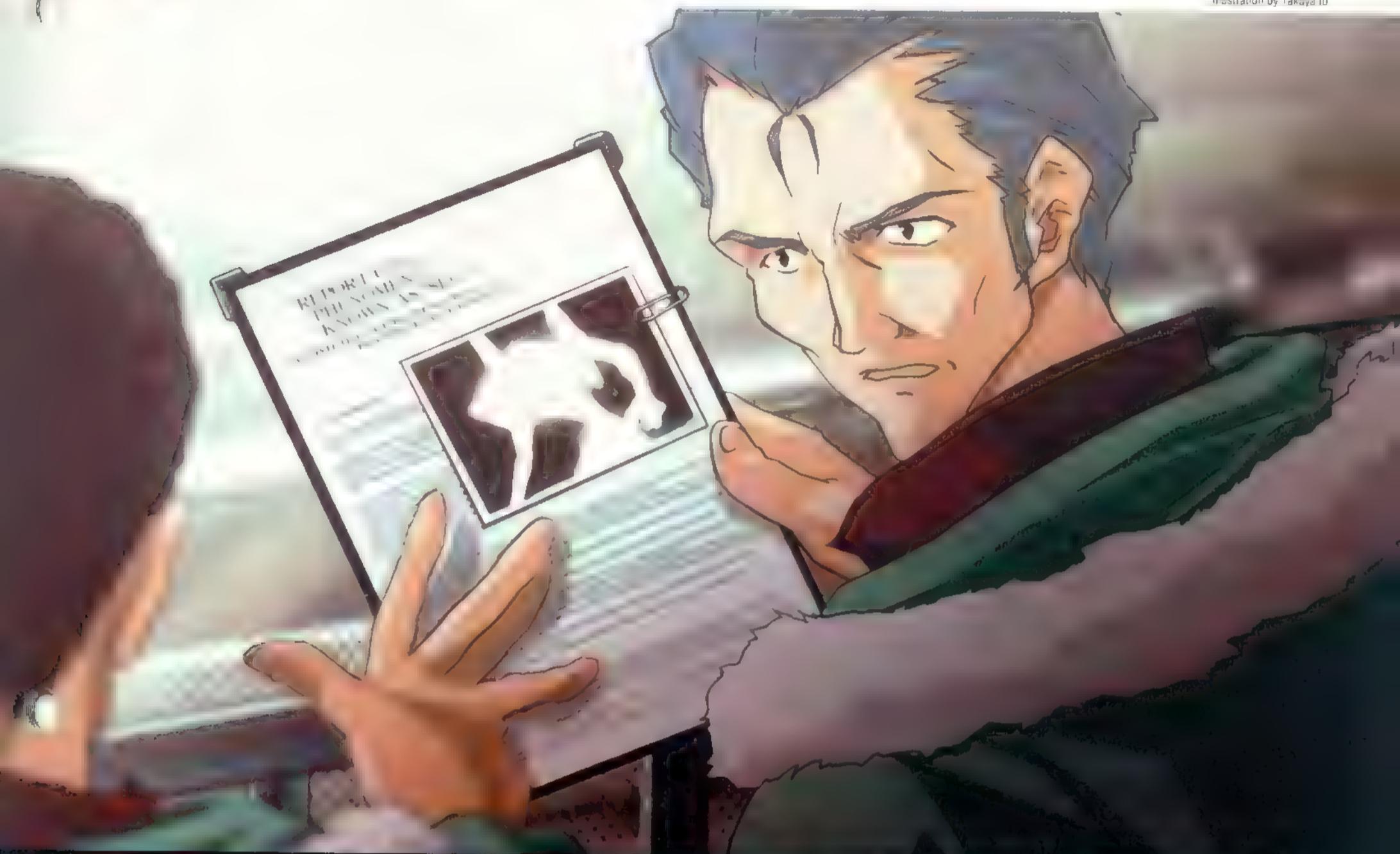
主な航空戦力として、局地戦向きのVTOL式重戦闘機、巡航ミサイルを搭載可能な戦略爆撃機などを有する。これらも自衛隊が有する兵器と同様のものだが、戦略自衛隊仕様で改修されていたようだ。また、NERV本部内の制圧においては、戦自が保有する特殊な機体と考えられるVTOL式軽戦闘機も用いられた。垂直離着陸が可能であるVTOLの長所を活かし、哨戒、対人制圧に活躍した



戦自仕様の重戦闘機 ATフィールドを持つEVA式号機には歯が立たず一方的に破壊されることとなった



施設内に進入可能なサイズの軽戦闘機。武装は単装機銃のみだが、NERV本部内の対人掃討でその性能を発揮した



葛城調査隊により南極で発見された巨人。調査隊は、真死海文書による「始源の存在」であるという第1使徒「アダム」の調査に専事し、しかし、その調査中に起きたアダムの覚醒が、セカンドインパクト発生を引き金となった。

## セカンドインパクト

### SECOND IMPACT

約40億年前、原始地球と大質量の隕石が激突した。さらに、この隕石との大衝突は、地球の衛星である月を生成したものとする一説がある。この大衝突は「ジャイアントインパクト」と呼ばれており、西暦2000年の南極大陸と巨大隕石との大衝突は、2度目の大衝突として、それに伴う全地球規模の大災厄を含めて「セカンドインパクト」と呼ばれている。その大災厄以降、数次に渡り派遣された国連南極調査団の記録をまとめた「セカンドインパクト調査委員会」は、大衝突は光速の数十%もの速度で飛来した質量 $4.02 \times 10^{22}$ トンという大質量隕石が南極に激突したことで引き起こされたものである、と公式に発表し、その内容は一般的に常識として受け入れられる運びとなった。一部には、この国連による公式発表を疑問視する者も存在した。セカンドインパクトにおいては、「南極調査団の調査結果」、「大質量隕石の観測記録」、また、セカンドインパクト発生時に目撃されたとされる「光の巨人」と「4枚の巨大な翼」

といった様々な情報が捏造、あるいは隠蔽されているというのである。実際にその疑問に符合する組織の暗躍の跡は確認されていたが、大災厄による全世界規模の気象異常、急速に悪化する世界情勢といった当面の危機を乗り切ることが優先された世界においては、そういった疑問を追及する声は広がらなかった。

しかし、事実は一般的に常識として受け入れられた内容ではなかったと言われている。西暦2000年、南極でS2機関の開発に着手し始めた葛城調査隊は、「使徒の始源」とされる人型の生命体——アダムを南極で発見。しかし、その調査中、アダムを覚醒させてしまったのである。葛城調査隊は国連南極基地に移送されていたロンギヌスの槍を使い、アダムを卵の状態に還元しようと試みるが、失敗。アダムの復活は阻止したものの、最終的にS2機関の暴走と思われる現象により、隕石の大衝突と同規模の大爆発が起こったというのだ。ただし、それらの作業を行っていたとされる葛城調査隊は南極大陸ごと消失したため、真実は藪の中である——

なお、NERV本部内ターミナルドグマに安置され

ているアダムと使徒が接触すると、大規模な爆発——サードインパクトが発生すると言われている。しかし、安置されていたのは「人類の始源」とも言われるリスであり、サードインパクトが実際に意味するところは「人類補完計画」の発動——人が人としての境界線を失い、人々が融合すること——つまり人類の補完だったのである。サードインパクトの発生が新たな人類の進む道であると思っていたゼーレ、碇ゲンドウら一部の人間は、「真死海文書」を確認することにより、それらの内容を熟知していた様子が窺える。彼らが葛城調査隊に関与していた事実と併せて俯瞰した場合、セカンドインパクトは一部の人間の意思によって発生した人災ともいえるが、その事実を知るものはほとんど存在しなかった。

### RELATED MATTER

- 葛城調査隊
- 国連
- 国連調査隊
- ゼーレ



スーパーソレノイド理論を提唱した葛城博士を筆頭とした調査隊。南極にて謎の巨人を発見し、多様な実験を行なった。

大災厄の爆心地にいた  
研究組織の活動

活動の経緯

西暦2000年、南極でS<sup>2</sup>機関開発に着手した葛城調査隊。そこで調査隊は、S<sup>2</sup>機関を持つ存在、第1使徒アダムを発見する。しかし、同年にセカンドインパクトが発生し、研究は志半ばで潰えた。なお、調査隊にはゲンドウらゼーレ関係者も同行していたが、彼らは膨大な調査資料と共に災厄発生

の前日に帰還した。資料の内容は定かではないが、後にゲンドウが特務機関NERVの最高司令官に就任し、使徒との戦いに従事することとなったのは、偶然とは言い切れない事実である。

葛城調査隊は何らかの理由により発見した第1使徒を目撃させてしまう。それが意図した結果かは不明である。なお、「光の巨人」として目撃された第1使徒の情報は、報道管制によりほとんど流出しなかった。

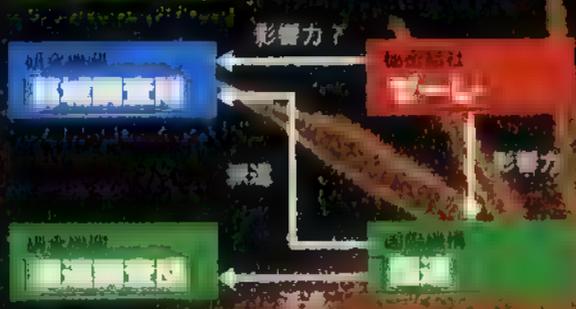


セカンドインパクト前後の南極における活動

S<sup>2</sup>理論の第一人者である葛城博士率いる調査隊は、アダムを発見した後にS<sup>2</sup>機関の研究に着手した。その流れを汲んだ場合、アダムの持つS<sup>2</sup>機関をサンプルとして研究を進めていたと考えるのが妥当であろう。ただしこの研究が、セカンドインパクトを引き起こした直接の原因とする説もある。

各組織の関係と活動

各組織の関係



葛城調査隊は国連が派遣した調査隊だが、実質的な支援はゼーレが行っていたと見られる。アダム、ロンギヌスの槍の発見も含め、その活動にゼーレが所有する「真死海文書」の記述が多大な影響を与えていたようだ。



経年表/セカンドインパクト関連の活動

- 1999年 葛城博士、S<sup>2</sup>機関の基礎理論を提唱。国連の支援を受け、実験モデルの製作に着手
- 2000年 葛城調査隊、南極へ現地にS<sup>2</sup>機関開発に着手
- 9月12日、死海からロンギヌスの槍を回収。南極南極基地に輸送
- 9月12日、葛城調査隊の一部の人間が帰国
- 9月13日、葛城調査隊、実験中に事故発生
- セカンドインパクト発生。南極大陸が消失
- アメリカ、イギリス、ドイツ、ロシア、日本による国連の再編成
- 国連、第一次国連調査団を南極に派遣
- 国連、第二次調査終了後、「セカンドインパクト調査委員会」による公式声明を発表

大災厄に関する公式発表と  
様々な人間が追い求めた真相

大災厄の真相

国連の公式発表においては、天災とされたセカンドインパクト。各国マスコミが大々的にこれを報道したことから、2015年における一般人の知識としては、この説が事実として信じられている。だが、この公式発表は報道管制を敷かれたことによる虚偽の事実であり、災厄の原因はS<sup>2</sup>機関の研究過程で発生した、第1使徒アダムの

覚醒によるものだったという。その事実気づいた人間も少なからず存在し、彼らは独自に真相を究明していくこととなる。

なお、2015年には人類補完計画（サードインパクト）が発動されるが、セカンドインパクト発生時にアダムに対する処置を遅れていた場合、これに極めて近い状態が生まれる可能性もあったという。

葛城調査隊の調査中にセカンドインパクトが発生し、調査隊の隊員は全員が死亡した。唯一の生き残りとなった葛城博士の娘ミサトは、後にゲヒルンを経てNERVに入所。独自にセカンドインパクトの真相を追求することとなる。



学生時代の葛城ミサト、ユイと繋がりを保持していた冬月コウゾウ助教授は、セカンドインパクトについての調査を独自に進めていた。彼は世界復興の一環として実施された第一次国連南極調査団に参加し、そこでゲンドウと再会する。

国連による公式発表

国連南極調査団のデータをまとめた「セカンドインパクト調査委員会」が公式声明を発表。その声明の内容は「光速の数十%もの速度で飛来した大質量隕石が南極大陸に激突したことによって引き起こされたものであり、事前の予測は不可能な天災であった」とするものだった。この報告は各国マスコミによって大々的に発表され、ほとんどの人々はその内容を鵜呑みにした。真実は一握りの人間だけにしか伝わらなかったのである。

再調査による様々な推論

公式発表に疑問を持ち、独自に再調査を行なう人間も存在した。冬月コウゾウは独自のルートを使って「光の巨人」の存在を知り、事実が隠蔽されていることを直感。セカンドインパクトが人為的災害であるという推論に至る。また、南極での悲劇の唯一の生き証人となった葛城ミサトは、加持リョウジの死後にその遺志を継ぎ、真相を探求。人類補完計画の概要も含めた何者かの意思に突き当たる結果となった。

真相とされる事象

公式発表は情報操作されたものであり、実際にセカンドインパクトを引き起こしたのは、葛城調査隊の行動であったとされている。使徒の始原とされるアダムを何らかの理由で目撃させてしまった葛城調査隊は、ロンギヌスの槍を使ってアダムを卵に還元しようとするも、これに失敗。最終的にはS<sup>2</sup>機関の暴走により、セカンドインパクトが発生したとされている。なお、この事件でアダムの肉体は失われてしまった。



公式発表の場には、著者日のキール・ローレンツの姿があった。事実の隠蔽がゼーレの意図によるものだったことの証左といえよう。



若き日の冬月と加持の遺志を継いだミサトは、共にほぼ自力で調査を進めた。両者共、部分的には大災厄の真相に肉着していた。



ロンギヌスの槍を用いてアダムを卵に還元しようとした人類。セカンドインパクトは、その失敗により発生した人為的災厄であった。

追加報告

アダムの肉体について

特務機関NERV本部の最下層には、ロンギヌスの槍を突き立てられた巨大なヒト型生物が存在する。その生物は第1使徒アダムと考えられており、一部のNERV職員もそれがアダムと信じ込まされていた。しかし、第1使徒アダムの肉体はセカンドインパクト発生時に失われたとされており、実際にNERV本部に納められていた生物は、ヒトの始原とも言われる生命体リリスであった。失われたというアダムの肉体の行方は不明だが、その一部はNERVなどの組織が回収した。



4枚の翼が広がった後、セカンドインパクトが発生。アダムの肉体は失われた。なお、加持リョウジが輸送した胎児状の生物は、アダムの肉体を復元したものと推測される。ゲンドウ自身も、この生物、つまり「最初の人間」アダムだと認めており、一部でその回収・復元が進められていたことが分かる。

## 保安部メインバンク

NERV保安課報部の主だった情報を保存している場所と推測される。第11使徒イロウルは、サブコンピュータから保安部メインバンクを経由してMAGIシステムのコードを解析し、ハッキングした。

## 防護服

NERVで用いられる気密型の化学防護服。高い気密性を持つため非常に蒸すようだ。使徒との戦闘現場など、汚染の危険性が高い区域で作業を行なう際に着用する。また、第13使徒バルディエル戦後、EVA初号機に立てこもった碓シンジ強制排除の際にも用いられており、EVAの部品などを汚染しないためにも着用されているものと考えられる。



機体回収班が着用しているほか、第3使徒サキエルが自爆した際は、作戦部の葛城ミサトや技術局の赤木リツコ、伊吹マヤも着用して現場の調査を行なった。

## 帽子

葛城ミサト曰く「豪華なお船で太平洋をクルージング」に誘われた際、鈴原トウジが新調した帽子。実際のところ、EVA式号機と共に護送されてきた惣流・アスカ・ラングレーを迎えに行く任務のついでに連れていってもらえただけだが、トウジとしてはデート気分であった様子。帽子には気を使っているものの、服装は普段通りジャージのままである。



太平洋艦隊に到着した際に帽子は風で飛ばされ、落ちて転がったところ無惨にもアスカに踏みこまれてしまう。

## 放射能防護服

放射能より人体を保護するために作られた防護服。完全気密型で、旧東京再開発臨海部国立第3試験場に配備されていた。



制御不能に陥ったJ/Aを上めるため、汚染物質の充満した内部に乗り込む際、葛城ミサトが着用した。

## 暴走

EVAが制御不能に陥り、自律稼働を行なう現象。どのような原理でこの暴走が発生するのかは明らかではないが、操縦者の危機に反応して発生している。その際は、電源ゼロ状態での稼働や身体の復元など、スペック上あり得ない能力を発揮することが多い。EVA初号機は、第3使徒サキエル戦、第12使徒レリエル戦、第14使徒ゼルエル戦において暴走し使徒を殲滅。また、EVA式号機はEVA量産機戦において暴走の兆候を見せた。なお、EVA零号機は、起動実験および第一回機体相互互換試験において制御不能に陥っているが、電源切れで停止している。



本来ならば制御不能である状態は望ましくない事態ではあるが、暴走により危機的な局面を脱し、使徒を倒した例もいくつか存在する。

## ポジトロンスナイパーライフル

第5使徒ラミエルを長々距離より狙撃するためにNERV技術局第3課が開発を行なったライフル。戦自研のプロトタイプである、自走陽電子砲を改造したもの。EVA専用改造陽電子砲（ネルノ仕様）も戦自研自走陽電子砲を参照。

## ポジトロン20Xライフル

望遠スコープ装備の長々距離対応ポジトロンライフル。ポジトロンライフルを改良したもので、冷却期間をおくことなくカートリッジによる8回までの連続射撃を可能にしている。兵装ビルではなく本部内の施設に収容されており、使用時にリフトで地上のEVAの元へ届けられる。第15使徒アラエル戦においてEVA式号機が使用。陽電子弾は辛うじて成層圏に届いたものの、使徒の出現位置に届くほどの射程は持たなかった。



使徒を射程距離内に捉えることかできず2発の陽電子弾は宇宙空間で消滅。精神を侵された惣流・アスカ・ラングレーは、残りの6発を第3新東京市の地面に向けて誤射してしまう。

## ポジトロンライフル

EVA専用の陽電子砲。ヤシマ作戦においては使徒を倒すだけの高エネルギーに砲身が耐えられないとされ使用が見送られたが、第7使徒イスラフェル戦における二点同時過重攻撃の際にEVA式号機が使用した。平時は第3新東京市の兵装ビルに格納されていると思われる。EVA専用陽電子砲（円環加速式試作20型）も参照。



分裂したイスラフェルに対しポジトロンライフルを放つ式号機。一方、初号機はバレットライフルで応戦していた。

## ポジトロンスナイパーライフル改

ヤシマ作戦で使用されたポジトロンスナイパーライフルの改良型。別名大出力ポジトロンライフル改。第15使徒アラエル戦においてEVA零号機が使用した。ヤシマ作戦のときと違い日本全国の電力を用いた出力ではないため、ライフル自体の最大出力をもってしてもアラエルのA.T.フィールド突破には至らなかった。



零号機の放った陽電子ビームは衛星軌道上のアラエルに届いたものの、使徒が展開したA.T.フィールドに遮られ、拡散してしまう。

## 補償

心理学では、人間の心に存在する意識と無意識のバランスをとろうとする自然な働きのことを「補償」と呼ぶ。意識がある一方に偏って心のバランスを一時的に失った場合、夢の中などの無意識においてその偏りに相反する意識を生み出し、それによって自我を均衡に保つ。しかし、一般に意識が偏る時とは当人の主張が強く表れている時であり、ゆえに無意識はその主張に反する「当人が強く拒絶する不愉快なもの」を生み出すことになるため、受け入れ難いものを強制的に受け入れなければならない状態になった場合、神経症など精神疾患の原因になる可能性もある。また、精神分析学における防衛機制（自我を守る作用）のひとつでもあり、自らが劣等感を抱く分野とは別分野で成功し、劣等感を補おうとすることを指す。EVA初号機に取り込まれた碓シンジの内面世界において見られる文字のひとつ。

# 補償

ソンの内面世界に表れた「補償」の文字。そのほか「劣等感」や防衛機制である「抑圧」の文字も見られる。

## 墓地

第3新東京市の郊外にあると思われる共同墓地。どこまでも続く荒涼とした土地に、死者の名前が刻まれた細長い石が等間隔に並んでいる。その中には碓ユイの墓標もあるが、碓ゲンドウによれば墓標の下に遺体は埋められていないらしい。極端に簡易化された墓標が並ぶ中、ほかに花が供えられた形跡を見つけることはできない。



ソングとゲンドウもこの場所には久しく訪れ、なか、た訪問者が増えることなく、墓標ばかりが地を埋め続けているのだろう。

## ホットライン

要人同士が直接対話するための直通回線。または非常用の緊急回線のこと。司令席の機の引き出しには3機の電話機があり、右端の赤い電話機が緊急用のホットラインになっている。また、青葉シゲルも緊急用の電話機を持つ。



15年ぶりの使徒襲来に際し、ホットラインによって地雷の発動許可を受けた国連軍幹部。

## ホメオスタシス

生物の持つ「恒常性」と呼ばれる性質、体内の諸器官が、気温や湿度などの外的環境の変化、運動などによる肉体的

変化に対し、一定の均衡状態を保つための生命維持機構のこと。赤木リツコがこの「維持しようとする力」に「変えようとする力=トランジスタシス」を対比させ、その矛盾するふたつの性質を共有するものが生物だと語ったように、生物が生物であるために欠かせないシステムである。トランジスタシスも参照。



安定を求めながらも変化を望む。その相反した関係を聞いて加持リョウジは男と女を連想し、「ホメオスタシス」を「女」のイメージにとらえていたようだ。

## PoYo PoYo II

洞木ヒカリの家にあるゲームソフトのひとつ。学校にも行かず、ヒカリの家でゲームばかりやっていた惣流・アスカ・ラングレーがプレイしたものと思われる。ゲーム内容は不明だが、集めて消したくなるような顔の球体がジャケットに描かれている、ほかにも様々なジャンルのソフトが散らばっており、ヒカリの意外な一面が表れているようだ。



球体の上にかわいらしい女の子が乗っているイラストのジャケット。ハードはSECA製。

## 洞木ヒカリ

第3新東京市立第壹中学校、2年A組のクラス委員長。非常にしっかりしたまじめな性格を持ち、男子生徒からは「委員長」と呼ばれている。普段は悪ふざけをする男子たちに対して厳しい態度をとっているものの、3人姉妹の次女で、毎朝全員分のお弁当を作るなど家庭的で優しい少女である。クラスメイトの鈴原トウジに想いを寄せているがなかなか好意を伝えられないようだ。第16使徒アルミサエル戦後、葛城ミサトにペンペンを託されて疎開した。



トウジにお弁当を作ってもらいたいとはこきり言えず、姉妹の話や料理の話などで遠回りにしてしまいうヒカリ。思春期らしい心情が読みとれる。

## ポリソーム

水中用の無人作業機械。第11使徒イロウルがNERV本部施設内に侵入した際、浸食部に対してレーザーを放つために使用された。プリブノーボックス壁面に格納されており、本来は水中でのレーザー溶接などを行なう作業機械であると考えられる。なお、「ポリソーム」とはポリリボソームともいい、メッセンジャーRNAに複数のリボソームが結合している状態を指す。



イロウル侵入と同時にポリソーム3機の最大出力によるレーザーで殲滅を図るも、使徒のA.T.フィールドに阻まれた。



CATEGORY ま

## 毎朝新聞

全国紙と思われる新聞。セカンドインパクト当時の記事によると、国連調査団はその原因として隕石落下の可能性を示しており、のちに歴史の教科書でも「大質量隕石の落下」が原因であると記述されるようになった。また、ほかには「国連、本部を日本移転」「5年後、候補は第2新東京市」との記事があり、米国と独国が反対していることが記載されている。なお、NERV内での認識とは全く違う新聞記事であり、赤木リツコは「事実とは往々にして隠蔽されるもの」と語っている。



15年前のセカンドインパクト発生時は「南極で巨大爆発」という一面記事の号外も配布していたようだ。



歌：高橋洋子  
 作詞：及川眠子  
 作曲：佐藤英敏  
 編曲：大森俊之



# 残酷な天使のテーゼ

残酷な天使のように  
少年よ 神話になれ

昔い風がいま 胸のドアを叩いても  
私だけをただ見つめて  
微笑んでるあなた  
そっとふれるもの もとめることに夢中で  
運命さえまだ知らない いたいけな瞳

だけどいつか気付くでしょう  
その背中には 遙か未来  
めざすための羽根があること

残酷な天使のテーゼ  
窓辺からやがて飛び立つ  
ほとぼしる熱いパトスで  
思い出を裏切るなら  
この宇宙を抱いて輝く  
少年よ 神話になれ

ずっと眠ってる 私の愛の揺りかご  
あなただけが夢の使者に呼ばれる朝がくる

細い首筋を 月あかりが映してる  
世界中の時を止めて 閉じこめたいけど  
もしもふたり逢えたことに意味があるなら  
私はそう 自由を知るためのバイブル

残酷な天使のテーゼ  
悲しみがそしてはじまる  
抱きしめた命のかたち  
その夢に目覚めたとき  
誰よりも光を放つ  
少年よ 神話になれ

人は愛をつなぎながら歴史をつくる  
女神なんてなれないまま 私は生きる

残酷な天使のテーゼ  
窓辺からやがて飛び立つ  
ほとぼしる熱いパトスで  
思い出を裏切るなら  
この宇宙を抱いて輝く  
少年よ 神話になれ

エクストラシート  
xtra Sheet



エクストラシート  
xtra Sheet

主題歌(TVシリーズエンディング)

Sheet

02

ENDING SONG

歌：CLAIRE

作詞作曲：Bart Howard

編曲：Toshiyuki Ohmori



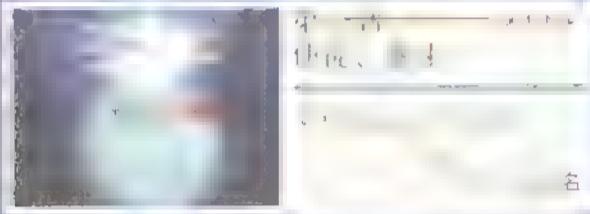
# FLY ME TO THE MOON

Fly me to the moon  
And let me play among the stars  
Let me see what spring is like  
On Jupiter and Mars  
In other words, hold my hand  
In other words, darling kiss me

Fill my heart with song  
And let me sing forevermore  
You are all I long for  
All I worship and adore  
In other words, please don't leave me  
In other words, I love you

FLY ME TO THE MOON  
Words & Music by Bart Howard  
TRO - © Copyright 1954 and renewed 1982 by HAMPSHIRE HOUSE  
PUBLISHING CORP., New York, N.Y., U.S.A.  
Rights for Japan controlled by TRO Essex Japan Ltd., Tokyo  
Authorized for sale in Japan only

# FLY ME TO THE MOON —ENDING VARIATION



第1話  
レイ、ミサト



第9話  
瞬間、心、重ねて  
Asuka Bossa Techno



第18話  
命の選択を  
B-1ギター・ピアノ



第7話  
使徒、襲来  
NORMAL/CLARE



第10話  
マグマダイバー  
Asuka Main(Cho入り)  
/NORMALオケ



第19話  
男の戦い  
3人Vocal(歌い分け)/  
NORMALオケ



第8話  
見知らぬ、天井  
NORMAL(Strings抜き)  
CLARE



第15話  
静止した闇の中で  
Rei, Asuka, Misato Ver  
NORMALオケ



第20話  
心のかたち 人のかたち  
B-1ピアノ



第13話  
鳴らない、電話  
NORMAL  
YOKO TAKAHASHI



第16話  
奇跡の価値は  
Misato Main(Cho入り)  
NORMALオケ



第21話  
ネルフ、誕生  
4BEAT(OFF)(65秒)



第4話  
雨、逃げ出した後  
NORMAL(Strings抜き)  
YOKO TAKAHASHI



第17話  
使徒、侵入  
YOKO TAKAHASHI  
Acid Bossa



第22話  
せめて、人間らしく  
Bossa Techno(OFF)  
(65秒)



第5話  
レイ、心のむこうに  
Rei #5



第14話  
ゼーレ、魂の座  
Rei Solo/NORMALオケ



第23話  
涙  
Rei #23 (65秒)



第6話  
決戦、第3新東京市  
Rei #6



第18話  
嘘と沈黙  
Misato 4BEAT



第24話  
最後のシ者  
NORMAL(OFF)(65秒)



第7話  
人の造りしもの  
4BEAT  
YOKO TAKAHASHI



第16話  
死に至る病、そして  
3人Vocal間奏スタート~  
1番後半  
NORMALオケ



第25話  
終わる世界  
Rei #25



第8話  
アスカ、来日  
Aya Bossa Techno



第17話  
四人目の適格者  
Aki Jungle



最終話  
世界の中心でアを叫んだけもの  
Rei #26

## 魂のルフラン

歌：高橋洋子  
 作詞：及川眠子  
 作曲：大森俊之  
 編曲：大森俊之



私に還りなさい 記憶をたどり  
 優しさと夢の水源へ  
 もいちど星にひかれ 生まれるために  
 魂のルフラン  
 蒼い影につつまれた素肌が  
 時のなかで 静かにふるえてる  
 命の行方を問いかけるように  
 指先は私をもとめる

抱きしめてた運命のあなたは  
 季節に咲く まるではかない花  
 希望のにおいを胸に残して  
 散り急ぐ あざやかな姿で

私に還りなさい 生まれる前に  
 あなたが過ごした大地へと  
 この腕に還りなさい めぐり逢うため  
 奇跡は起こるよ 何度でも  
 魂のルフラン

祈るように まぶた閉じたときに  
 世界はただ闇の底に消える  
 それでも鼓動はまた動きだす  
 限りある永遠を捜して

私に還りなさい 記憶をたどり  
 優しさと夢の水源へ  
 あなたも還りなさい 愛しあうため  
 心も体もぐりかえす  
 魂のルフラン

私に還りなさい 生まれる前に  
 あなたが過ごした大地へと  
 この腕に還りなさい めぐり逢うため  
 奇跡は起こるよ 何度でも  
 魂のルフラン

# THANATOS

—IF I CAN'T BE YOURS—

Artist: LOREN &amp; MASH

Lyrics: MASH

Music &amp; Arrange: Shiro SAGISU



Now it's time, I fear to tell  
 I've been holding it back so long  
 But something strange deep inside  
 of me is happening  
 I feel unlike  
 I've ever felt  
 And it's makin' me scared  
 That I may not be what I(think I  
 am)

What of us, what do I say  
 Are we both from a different world  
 Cos every breath that I take, I  
 breathe it for you  
 I couldn't face my life without you  
 And I'm so afraid. There's nothing  
 to comfort us  
 What am I, if I can't be yours

I don't sleep, don't feel a thing  
 And my senses have all but gone  
 Can't even cry from the pain, can't  
 shed a tear now  
 I realise  
 We're not the same  
 And it's makin' me sad  
 Cos we can't fulfil our dream(in this  
 life)

So I must, let us break free  
 I can never be what you need  
 If there was a way, through the  
 hurt  
 Then I would find it  
 I'd take the blows. Yes I would fight  
 it  
 But this is the one. Impossible  
 dream to live  
 What am I, if I can't be yours.



## エヴァンゲリオンの 劇場版

エヴァの旧劇場版は、1997年3月にTVシリーズの総集編と第貳拾伍話のリメイクである「DEATH & REBIRTH シト新生」、同年7月に完結編となる「THE END OF EVANGELION Air/まごころを、君に」が公開された。旧劇場版はTVシリーズ以上の反響を呼ぶこととなった。

### 春、夏の2作品となった旧劇場版

1996年3月、エヴァのTVシリーズは全26話で最終回を迎えた。未完とも取れるその結末は、大きな反響を呼び、その人気は放送時以上に加熱。社会現象と呼ばれるほどブームとなっていく。そして、物語の完結、謎の解明、続編を望む声は高まり、これらの要望に応えるようにエヴァの旧劇場版は公開される。「DEATH & REBIRTH シト新生」、および「THE END OF EVANGELION Air/まごころを、君に」である。

当初、エヴァの旧劇場版は、TVシリーズの総集編となる「DEATH」、そして第貳拾伍話と最終話のリメイクにして完結編となる「REBIRTH」で構成される1作品のみが1997年春の公開を目指して制作されていた。しかし、制作過程において、「REBIRTH」は構想以上に内容が膨らみ、上映時間の問題と相まって、作画のスケジュールを圧迫。すでに発表されていた春の公開を危ぶませた。この緊急事態に対して、エヴァ製作委員会は旧劇場版を2作品として公開することに方針を変更。従来通りの「DEATH」と第貳拾伍話の一部のみのリメイクとなった「REBIRTH」で構成した旧劇場版——「DEATH & REBIRTH シト新生」——を

予定通り1997年春に公開、同年夏に改めて完結編——「THE END OF EVANGELION Air/まごころを、君に」——が公開されることとなったのである。

旧劇場版が2作品となったことは、配給会社やスポンサーなどの製作サイドにとっては、うれしい誤算でもあったようだ。人気作の旧劇場版を1作品のみで完結させるには忍びなく、次回作を望んでいたのである。また、このことはファンにしても楽しみが増えたとして、おおむね好意的に捉えられた。何より作画などを行なう現場としてもスケジュールが伸びたことで、作品のさらなるクオリティアップへとつながっており、それぞれが望む形での方針転換であったことが伺える。

1997年夏公開の「THE END OF EVANGELION Air/まごころを、君に」にて、作品としてのエヴァはついに完結。庵野総監督としては、この旧劇場版にてエヴァを一区切りさせる意図もあったようだが、その衝撃的なラストはTVシリーズ以上の反響を呼び、さらに作品に取り付かれてしまった人々を生み出す結果となった。そして、エヴァは現在でも多くのファンから支持される作品となっている。作品完結から10年後、まったく新しい作品として再構成された新劇場版が公開されるのも、その人気の継続の証といえよう。

### 特記事項

#### 旧劇場版実写パート

旧劇場版制作時、メインキャストの声優陣（林原めぐみ、三石琴乃、宮村優子）出演の実写パートが撮影されていた。さらに「THE END OF EVANGELION」の旧劇場版予告は、この実写パートを元に組まれていたのである。しかし、実際に劇中で使用されたのは一部のみであった。カットの理由は庵野総監督の判断によるもので、旧劇場版が春と夏の2作品となったことによる内容の変化もあったようだ。ちなみにこの実写パートは、「NEON GENESIS EVANGELION DVD-BOX」のボーナスディスクにて「劇場版#26実写パート（特別ラッシュ編集版）」として収録されている。



旧劇場版のクライマックスに挿入された実写パート。メインキャストの声優陣によるカットも一部ながら使用されている。

実写パートには第3新東京市らしき風景もいくつか登場。ただし、これらのカットは、正確にはCG合成されたパートでもある。



NEON GENESIS  
EVANGELION

## DEATH &amp; REBIRTH

## THE END OF EVANGELION

ANECDOTE  
NOTE新世紀エヴァンゲリオン  
旧劇場版

## 逸話集

TV版終了後、社会現象と呼ばれるほどの流行となったエヴァは、1997年の春と夏に旧劇場版が公開。春の旧劇場版は約20億、夏の旧劇場版は約25億の興行収入を上げる大ヒットになった。ここではそんな旧劇場版にまつわる数々のエピソードを紹介する。

■当初、TV版終了後、もうひとつの完結編として第貳拾伍話、最終話のリメイク版をビデオソフトとして発表する予定であった。しかし、エヴァのあまりの人気にこのリメイク版は旧劇場版へと変更された。

■エヴァ旧劇場版公開決定は、1996年7月、GAINAXのファンクラブイベントにて行なわれた。また、1996年11月にはプレスを集めての制作発表記者会見も行なわれている。

■旧劇場版企画当初、完全新作を製作するプランもあった。このときのプロットは山下いくと氏の案が基となっており、この内容は角川書店刊『新世紀エヴァンゲリオンコンセプトワークス「それをなすもの」』に掲載されている。

■『DEATH』は、TV版の再編集に、新作を加え再構成した作品。シーンを単に順番に並べるのではなく、シャッフルした感じに繋げていくアイデアは構成・脚本の薩川昭夫氏によるものであった。

■『DEATH』において使用されたTV版は、第壹話から第六話、第八話～第拾話、第拾貳話、第拾伍話、第拾八話、第拾九話、第貳拾壱話から第貳拾四話である。

■『DEATH』の新作部分は約30分。新作は3パート(①少年たちが体育館で楽器を演奏するイメージシーン②TV版の映像のリメイク③第貳拾壱話から第貳拾四話までの話数に関する追加シーン)に分類できる。

■『REBIRTH』は、当初、TV版の第貳拾伍話と最終話のリメイクであり、完結編となる予定であったが、制作の過程で予定よりも遥かに内容が膨らんでしまい、70分以上の大作に。『DEATH』と併せると上映時間が2時間以上になってしまうため、前半部分の第貳拾伍話分のみ(正確には2/3程度)を春の旧劇場版として公開する事となった。

■本来、春公開の1作品のみであった旧劇場版が1997年春と夏の2作品となったことは、従来の旧劇場版公開予定であった1997年3月15日の約1ヶ月前、2月14日にプレスを集めて公式発表された。

■庵野総監督は、『REBIRTH』の絵コンテの作業が終了後、すぐに『Air』の制作作業に入った。作画に関しても、『REBIRTH』とは別チームが生まれ、並行して作業は進められた。

■『THE END OF EVANGELION』はTV版第貳拾四話『最後のシ者』に続く物語である。

■『THE END OF EVANGELION』のロゴは2種類作られた。ひとつはポスターや前売り

チケットに、もうひとつは手書きのロゴでパンフレットに使用された。

■『THE END OF EVANGELION』では、積極的に3D的なCGを使用している。CG制作の中心となったのは、オムニバスジャパン。『まごころを、君に』の人類補完計画発動以降のシーンの処理は、ほぼオムニバスジャパンによるものであった。

■『Air』はTV制作中に仕上がった“当初”の第貳拾伍話の脚本をベースとしている。この脚本は制作期間などの諸問題があり、お蔵入り。TV版では内面宇宙で展開する物語へと変更された。

■『Air』のタイトルは、式号機と量産機の戦闘シーンにも流れているバツハの『G線上のアリア』からきている。

■『Air』において、『REBIRTH』と内容が重複するパートに関しては、クオリティアップのために、その1/4ほどは撮影などのリメイク作業が行なわれている。

■『まごころを、君に』の演出は庵野総監督自らが担当。より庵野テイストの強い完結編となった。

■『まごころを、君に』の実写パートは、春の旧劇場版公開前の1996年12月頃にはすでに撮影を終えていた。

■『まごころを、君に』の実写パートは、シンジの内的宇宙の描写である。この撮影のために「特殊制作班」が組まれている。特技監督(特殊撮影における監督)として樋口真嗣氏が参加。庵野総監督と互いに意見を出し合いながら撮影された。

■『まごころを、君に』の実写パートの砂場シーンにおけるBGMの童謡は、実際に保育園で録音したもの。PRODUCTION I.Gのプロデューサーである石川光久氏が当時、娘さんが通っていた昭島市立拝島保育園へ赴き、録ってきている。

■『まごころを、君に』ラストシーンのアスカのセリフは、脚本・絵コンテでは「あんたそんなに殺されるのは、まっぴらよ」であった。

■1998年3月には『新世紀エヴァンゲリオン 劇場版 REVIVAL OF EVANGELION DEATH (TRUE) / Air / まごころを、君に』が公開された。これは春の旧劇場版の『DEATH』編の修正版となる『DEATH (TRUE)』と夏の旧劇場版『THE END OF EVANGELION』を同時上映したもので、ある意味、旧劇場版エヴァの(1997年春に公開される予定であった)本来の形といえた。

# NEON GENESIS EVANGELION DEATH & REBIRTH THE END OF EVANGELION

## COLLECTION 1

エヴァの旧劇場版では、特典付き前売りチケットが多数リリースされている。これら前売りチケットは記録的なセールスを上げており、映画は公開前からすでにヒットが確定していたのである。



全国共通  
特別鑑賞券  
¥1300  
新世紀  
エヴァンゲリオン  
劇場版  
シト新生  
'97春休み  
ロードショー

### NEON GENESIS EVANGELION ADDITION

『DEATH & REBIRTH シト新生』の前売りチケットとCDのセット。CDには「残酷な天使のテーゼ」、「FLY ME TO THE MOON」など12曲が収録されていた。



←綾波テレカ



→アスカテレカ

### 『THE END OF EVANGELION Air/まごころを、君に』 ポスター

春の旧劇場版で人気となったポスター付きチケットは、夏の旧劇場版でもリリースされた。



### 『DEATH & REBIRTH シト新生』 前売りチケット用ポスター

前売りチケットに特典として付いていた貞本義行氏による描き下ろしポスター。パンフレットにも、同じイラストが使用された。

### 『DEATH & REBIRTH シト新生』 前売りチケット用限定テレカ

綾波版、アスカ版共に2万枚限定でリリースされた貞本義行氏による描き下ろしテレカ付きの前売りチケット。どちらも発売即日に完売している。



### Genesis0:0

春の旧劇場版では、完全予約生産ながら、ビデオ付きの前売りチケットもリリースされた。ビデオにはメイキングやインタビュー、記者会見などが収録されている。

# NEON GENESIS EVANGELION DEATH & REBIRTH THE END OF EVANGELION COLLECTION 2

旧劇場版の告知ポスターやチラシ、パンフレットを紹介。パンフレットは非常に人気が高く、ひとりで2部ずつ購入するファンも少なくなかったようだ。

## 『DEATH & REBIRTH シト新生』告知ポスター

EVA製作委員会による春の旧劇場版告知ポスター。非売品。



THE EVANGELION: DEATH  
EVANGELION: REBIRTH

## 『DEATH & REBIRTH シト新生』デラックスパンフレット

良本義行氏、基目喜一氏などのインタビューを掲載。通常版パンフレットの倍以上のボリュームがあった。



## 『DEATH & REBIRTH シト新生』パンフレット

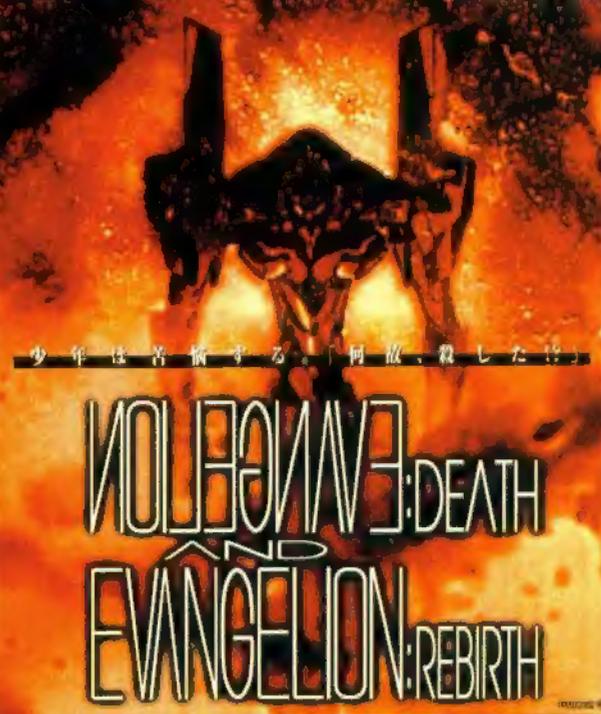
通常版のパンフレット。年表や人物紹介、出演者コメントなどが掲載された。

THE EVANGELION

## 『THE END OF EVANGELION Air/まごころを、君に』パンフレット

鶴巻和哉氏のインタビュー、出演者のコメント、プロダクションノートなどが掲載された。

## 新世紀エヴァンゲリオン劇場版 シト新生



## 『DEATH & REBIRTH シト新生』チラシ

映画館などで配られた旧劇場版のチラシ。イラストはチラシ用の描き下ろしであった。